
**女性の就業等意識調査
結果報告書**

(概要版)

平成 22 年 2 月

奈 良 県

～ 目 次 ～

I	調査の概要	1
II	回答者について	2
III	調査結果	4
	1. 働いているのか、働いていないのか？	4
	2. 働きたいのか？ 働きたくないのか？ 働けないのか？	6
	3. なぜ働けないのか？	9
	4. どのような条件であれば働けるのか？	13
	5. 女性が働くために必要な環境とは？	17
	6. 女性の生き方の理想と現実	30
	7. 調査のまとめーなぜ、奈良県の女性就業率は低いのか	32

I 調査の概要

●調査の目的

奈良県では女性の有業者の割合が全国最下位となっていることから、女性の就業等に関する意識や実態を把握し、今後の施策の検討や実施をする際に活用させていただくために本調査を実施しました。

●調査設計

調査地域 : 奈良県全域 (全市町村)
調査対象者 : 20歳以上 50歳未満の女性を、各市町村ごとに平成20年10月1日現在の住民基本台帳の登録者数に比例して割り当てた標本数3,000件から系統抽出
調査対象者数 : 3,000人
調査時点 : 平成21年8月1日
調査期間 : 平成21年8月17日～平成21年8月31日まで
調査方法 : 調査票による本人記入方式 (本人が記入できない場合は家族) 郵送配布・郵送回収による郵送調査方法

●調査結果分析・監修

宮坂 靖子 (奈良大学社会学部教授)

●回収結果

a: 調査対象者数 (配布数)	b+c: 回収数	回収状況		b/a: 有効回収率
		b: 有効回収数	c: 無効回収数	
3,000	1,371	1,369	2	45.6%

地域3区分別回収結果

地域	a: 調査対象者数 (配布数)	b: 有効回収数	b/a: 有効回収率
奈良市	800	366	45.8%
大和平野地域 (奈良市以外)	1,971	888	45.1%
大和高原及び五条・吉野地域	229	109	47.6%
地域が不明だったもの		6	

●報告書の見方

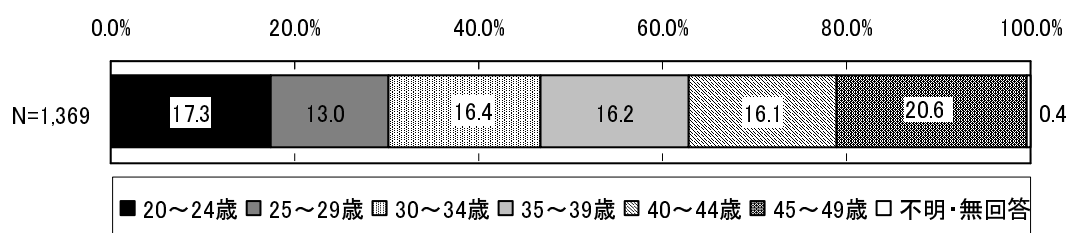
- ・ 回答結果は、小数点第2位を四捨五入した有効サンプル数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、単数回答 (複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式) であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ・ 複数回答 (複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式) の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%をこえる場合があります。
- ・ 図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- ・ グラフ及び表のN数 (number of case)、「サンプル数」は、有効標本数 (集計対象者総数) を表しています。本文中 (S A) は単数回答の設問、(M A) は複数回答の設問を表しています。

Ⅱ 回答者について

回答者の年齢は45～49歳がやや多いが、ほぼ同じ割合となっている。婚姻状況では、未婚者が37.8%、既婚者が57.0%、配偶者と離婚もしくは死別した人が4.5%となっている。末子の年齢別には、13歳以上が37.9%となっているほかは、各年齢とも1割程度となっている。《図1、2、3》

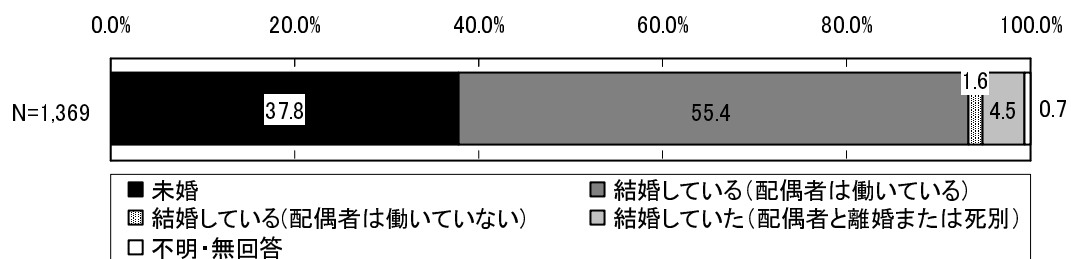
●年齢

図1



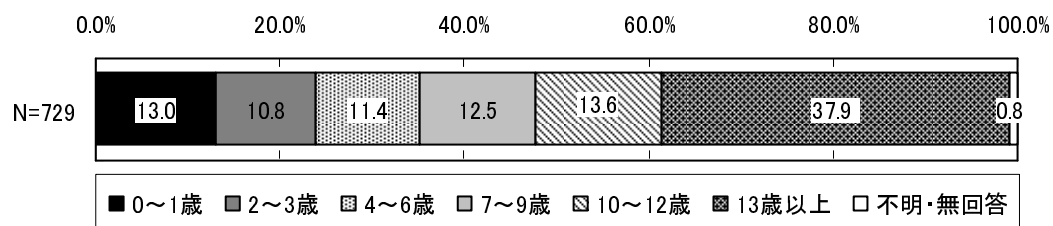
●婚姻状況

図2



●末子の年齢

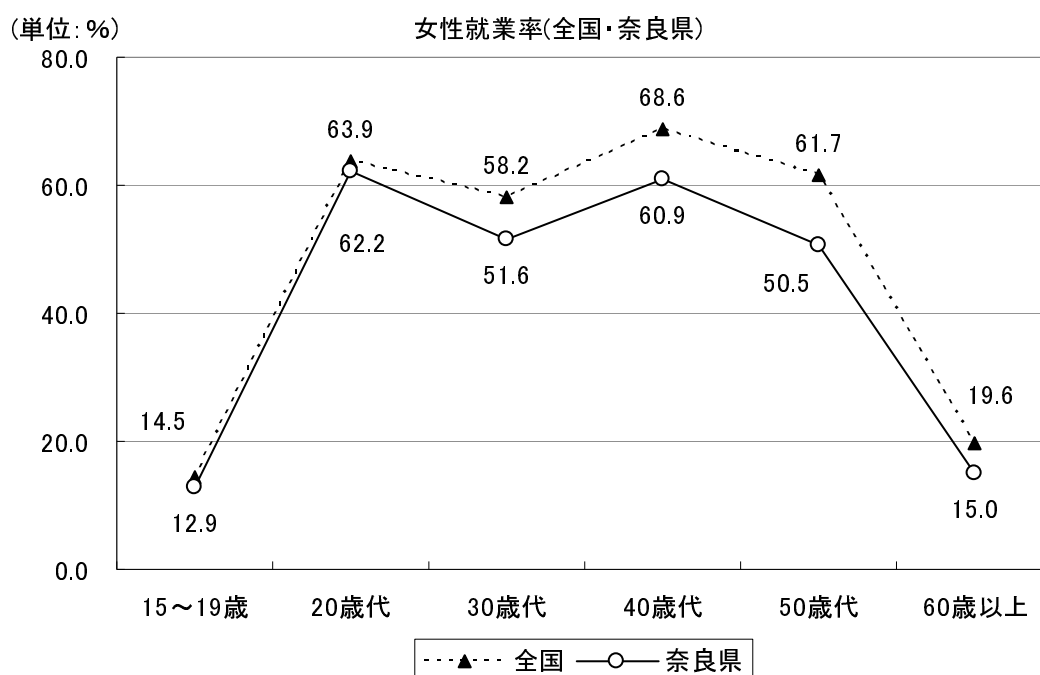
図3



参考 全国の女性就業との比較

平成 17 年の国勢調査によれば、女性就業率は、全国平均の 41.9% に対して、奈良県は 39.6% と、全国で最も女性就業率の低い県となっている。奈良県の女性就業率は、20 歳代ではほぼ全国平均並みであるが、30 歳代以降になると全国に比べて就業率が低くなる。その特徴は、第一に、女性就業率曲線の M 字の谷が深いこと、第二に、しかも第二の山も低いという点にある。つまり、全国に比べて、奈良県の女性は、出産・育児期に専業主婦になる傾向があり、さらに、子育て後に再就職をする人の割合が低くなっている。《図 4》

図 4



* 「平成 17 年国勢調査」による

Ⅲ 調査結果

1. 働いているのか、働いていないのか？

○回答者の約7割が現在就業しており、多くの人が学卒後には働いた経験をもっている。

回答者 1,369 人中、現在働いている人は全体の 67.9% (929 人) であり、奈良県の女性就業率 (本調査の対象者である 20 歳以上 50 歳未満の女性就業率) 57.9% よりも高くなっている。本調査の回答者の特徴としては、有職者が多いということが挙げられる。

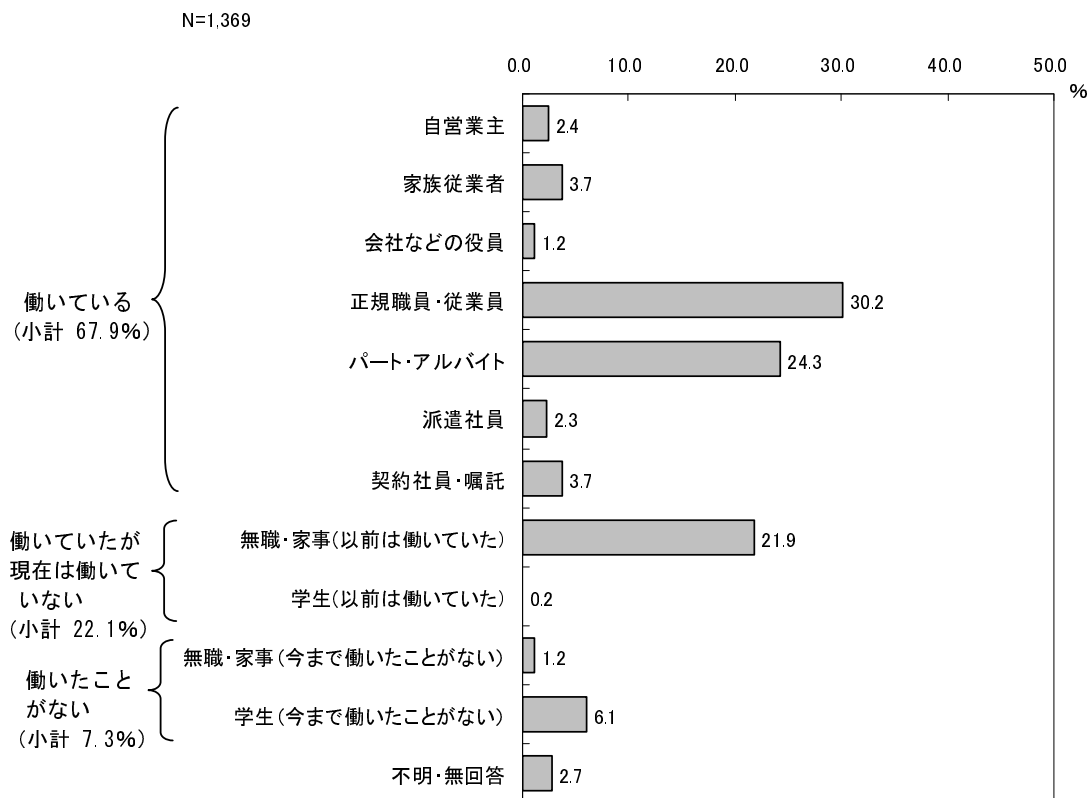
以前働いていたが現在働いていない人 (現在、無職もしくは家事に従事している人と学生) は 22.1% (303 人)、働いたことのない人が 7.3% (100 人) おり、そのうち 84 人は学生となっている。《図 5》

問 6 あなたの現在のお仕事についてお聞きします。

a. 働いている状況 (SA)

働いている状況についてみると、「正規職員・従業員」が 30.2% と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が 24.3%、「無職・家事(以前は働いていた)」が 21.9% となっている。

図 5



既婚で労働経験のない人は 11 人と少数である。《図 6》

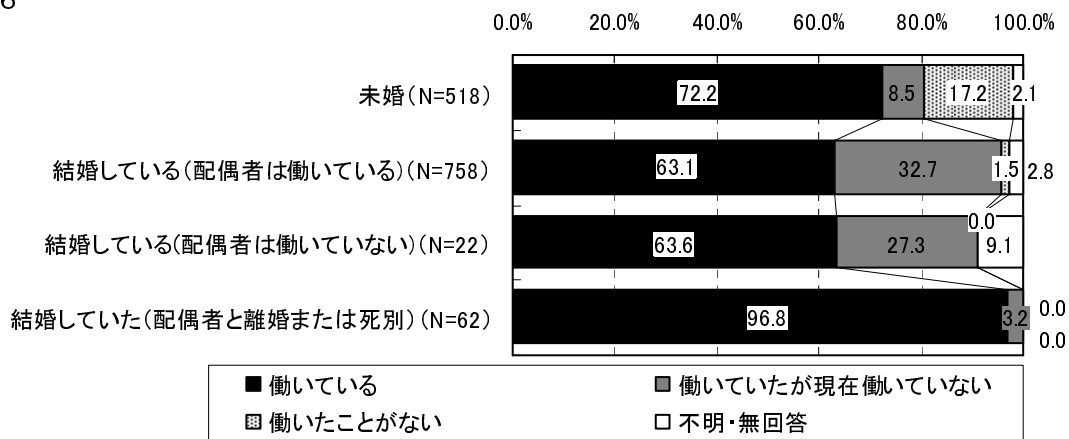
問 6 あなたの現在のお仕事についてお聞きします。

a. 働いている状況 (SA)

◆婚姻状況別クロス

婚姻状況別にみると、「結婚している (配偶者は働いている)」「結婚している (配偶者は働いていない)」では他の階層より「働いていたが現在働いていない」の割合が高くなっている。

図 6



2. 働きたいのか？ 働きたくないのか？ 働けないのか？

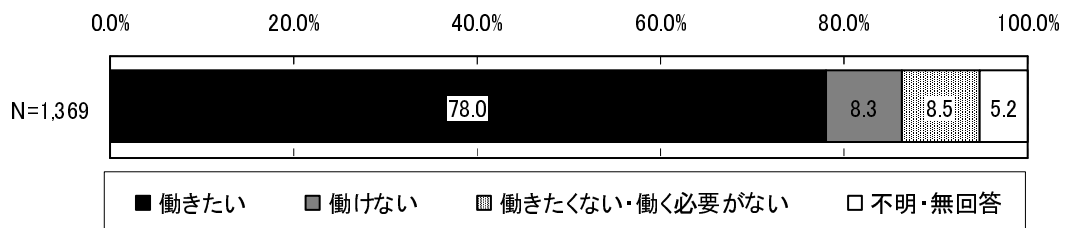
- 回答者の約8割が就業意欲を持っている。
- 就業したい理由では、子どもがいる女性では子どもの教育費のため、子どもがいない女性では、個人の楽しみや成長などのために割合の多くを占めている。

回答者すべての人を対象に、現在働いている人には今後も「働き続けたいか」を、現在働いていない人には「今後働きたいか」を尋ねた結果、全体の約8割が「働き続けたい」もしくは「今後働きたい」と答えた。「働けない」、「働きたくない・働く必要がない」と回答した人は合わせて16.8%にとどまっている。《図7》

問7 あなたの仕事に対する考えや思いについてお聞きします。今後あなたは働きたい（働き続けたい）ですか。（SA）

今後の就労意向についてみると、「働きたい」が78.0%と最も高く、次いで「働きたくない・働く必要がない」が8.5%となっている。

図7



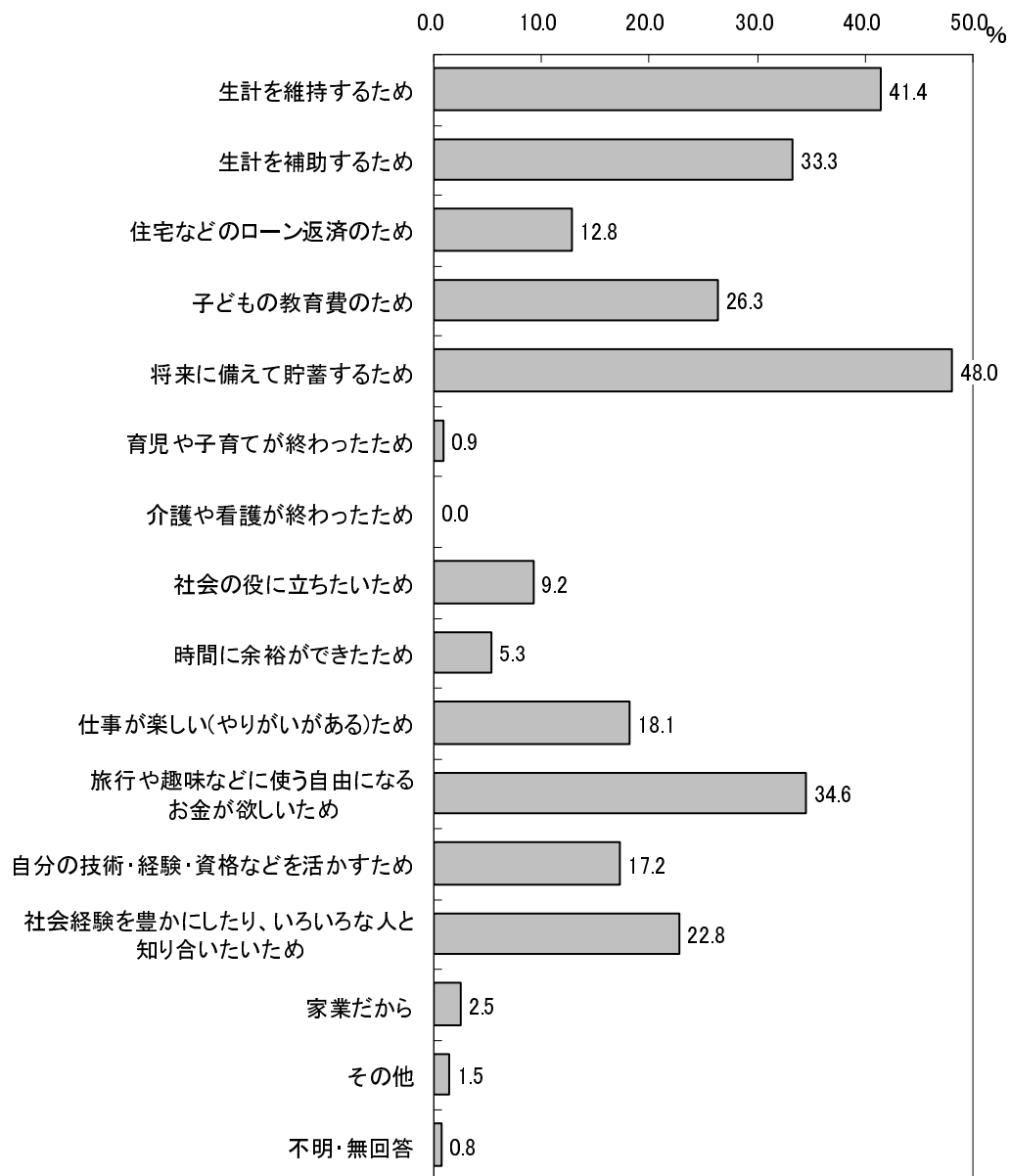
「働き続けたい」「今後働きたい」と回答した人（1,068人）が挙げた就業したい理由は、「将来に備えて貯蓄するため」「生計を維持するため」「旅行や趣味などに使う自由になるお金が欲しいため」「生計を補助するため」となっている。旅行や趣味などの自由なお金のためという理由以外は、すべて生活上、必要であるものとなっている。《図8》

問9 今後「働きたい」理由は何ですか。(MA)

○働きたい理由についてみると、「将来に備えて貯蓄するため」が48.0%と最も高く、次いで「生計を維持するため」が41.4%、「旅行や趣味などに使う自由になるお金が欲しいため」が34.6%となっている。

図8

N=1,068



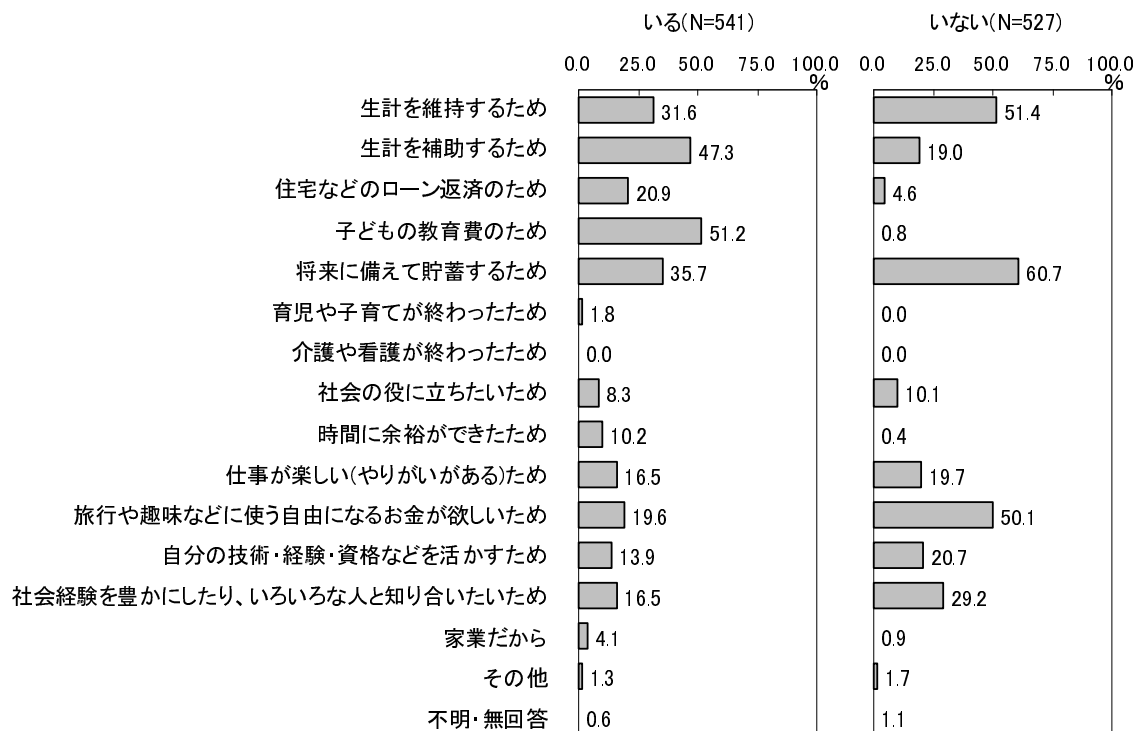
働く理由を子どもの有無別にみると、子どものいない人（527人）が働く主な理由は、「将来に備えて貯蓄するため」「生計を維持するため」「旅行や趣味などに使う自由になるお金が欲しいため」「社会経験を豊かにしたり、いろいろな人と知り合いたいため」という理由である。それに対して、子どものいる人の理由は、「子どもの教育費のため」「生計を補助するため」「将来に備えて貯蓄するため」「生計を維持するため」となっている。子どものいない人の場合は、「旅行や趣味などに使う自由になるお金が欲しいため」「社会経験を豊かにしたり、いろいろな人と知り合いたいため」という、個人の楽しみや成長などのための理由が上位に入っているのに対して、子どものいる女性（母親）の場合には、「子どもの教育費のため」が第一位になっている点が大きく異なっている。《図9》

問9 今後「働きたい」理由は何ですか。(MA)

◆子どもの有無別クロス

子どもの有無別にみると、[いる]では「子どもの教育費のため」の割合が高く、[いない]では「将来に備えて貯蓄するため」の割合が高くなっている。

図9



3. なぜ働けないのか？

○現在働いている人、働いたことがない人の8割以上が就労意欲を持っている。しかし、以前働いていたが現在働いていない人では現在働いている人、働いたことがない人にくらべ「働きたい」は約5割と低く、「働けない」は3割と高い。

○「働けない」と答えた人のうち、既婚者のうち、約9割の人には子どもがいる。

○働けない理由は末子が6歳までは『育児や教育のため』が多く、13歳以上では『介護や看護のため』が多い。また、『条件に合う仕事がない』等、労働環境に関する理由は子どもの年齢に関わらず多くなっている。

○女性のライフステージによって具体的な要因は異なるが、子どもが小さい間は「子どもの育児や教育」のため、子どもが大きくなると次は老親の「介護や看護」のために「働けない」という状況がうかがえる。

「働けない」人はどのくらいいるのか？

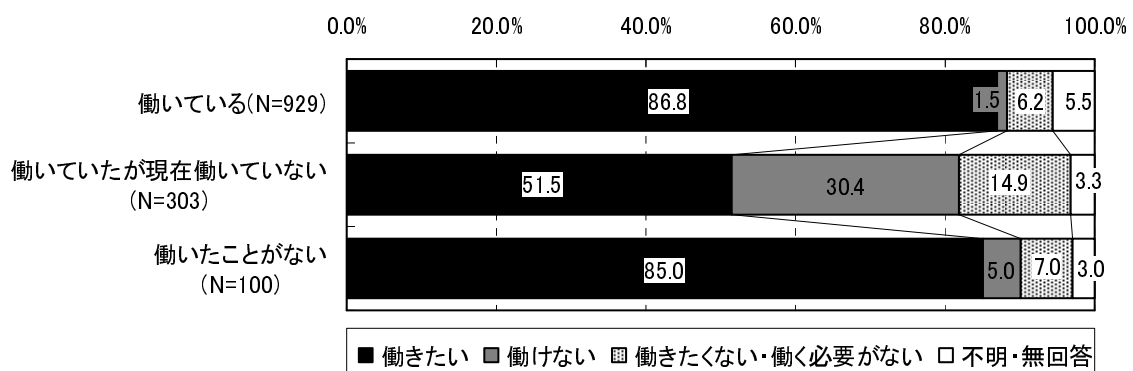
就労意欲を、現在の就業の有無別にみると、現在働いている人（929人）のうち、約9割の人は「働きたい」と回答している。また、働いたことがない人（100人）の約9割弱の人が「今後働きたい」と回答している。ただし、100人のうち84人は学生であることに留意する必要がある。以前働いていたが現在働いていない人は303人で、回答者全体の四分の一弱（22.1%）を占めている。この人たちの中で過半数（51.5%）は「今後働きたい」と回答している。他方で、「働けない」と答えた人が約3割（30.4%）いる。《図10》

問7 あなたの仕事に対する考えや思いについてお聞きます。今後あなたは働きたい（働きたい）ですか。（SA）

◆就労状況別クロス

○就労状況別にみると、[働いていたが現在働いていない]では、他の階層より「働きたい」の割合が低くなっており、「働けない」の割合が高くなっている。

図10



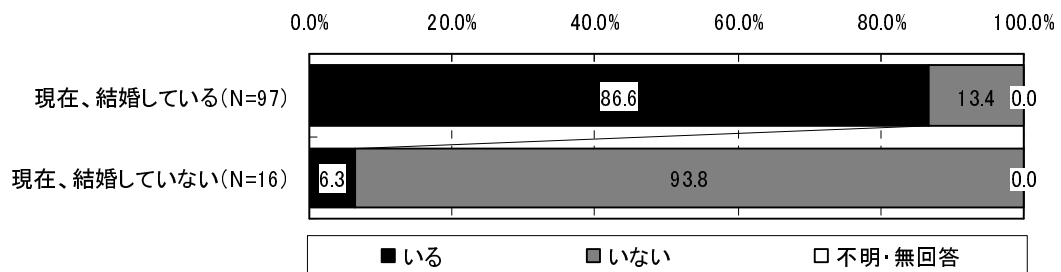
「働けない」と答えた人（114人）のうち、既婚で子どものいない人は約1割（13人）にとどまっている。つまり、「働けない」と答えた既婚者（97人）のうち、約9割（84人）の人には子どもがいる。《図11》

問7 あなたの仕事に対する考えや思いについてお聞きします。今後あなたは働きたい（働き続けたい）ですか。（SA）

「働けない」と答えた方の子どもの有無について婚姻状況別にみると、「いる」は[現在、結婚している]で86.6%、[現在、結婚していない]で6.3%となっている。

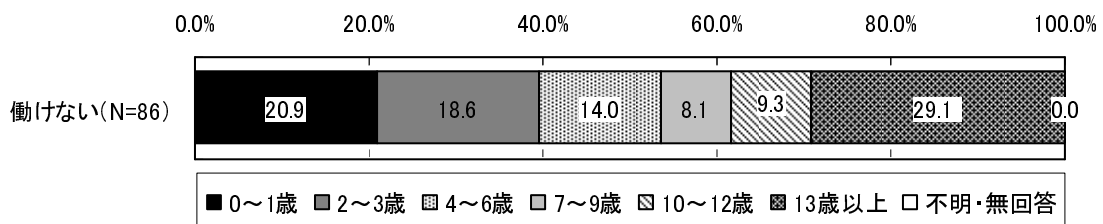
◆「働けない」と答えた方の子どもの有無について婚姻状況別クロス

図11



「働けない」と答えた方の末子の年齢

図12



なぜ働けないのか？

「働けない」と答えた人（114人）が「働けない」理由は、「子どもの育児や教育への専念」が41.2%と最も高く、次いで「家事への専念」が22.8%、「賃金や雇用形態、勤務時間などの条件の合う仕事がないため」が21.9%と続いている。《図13》

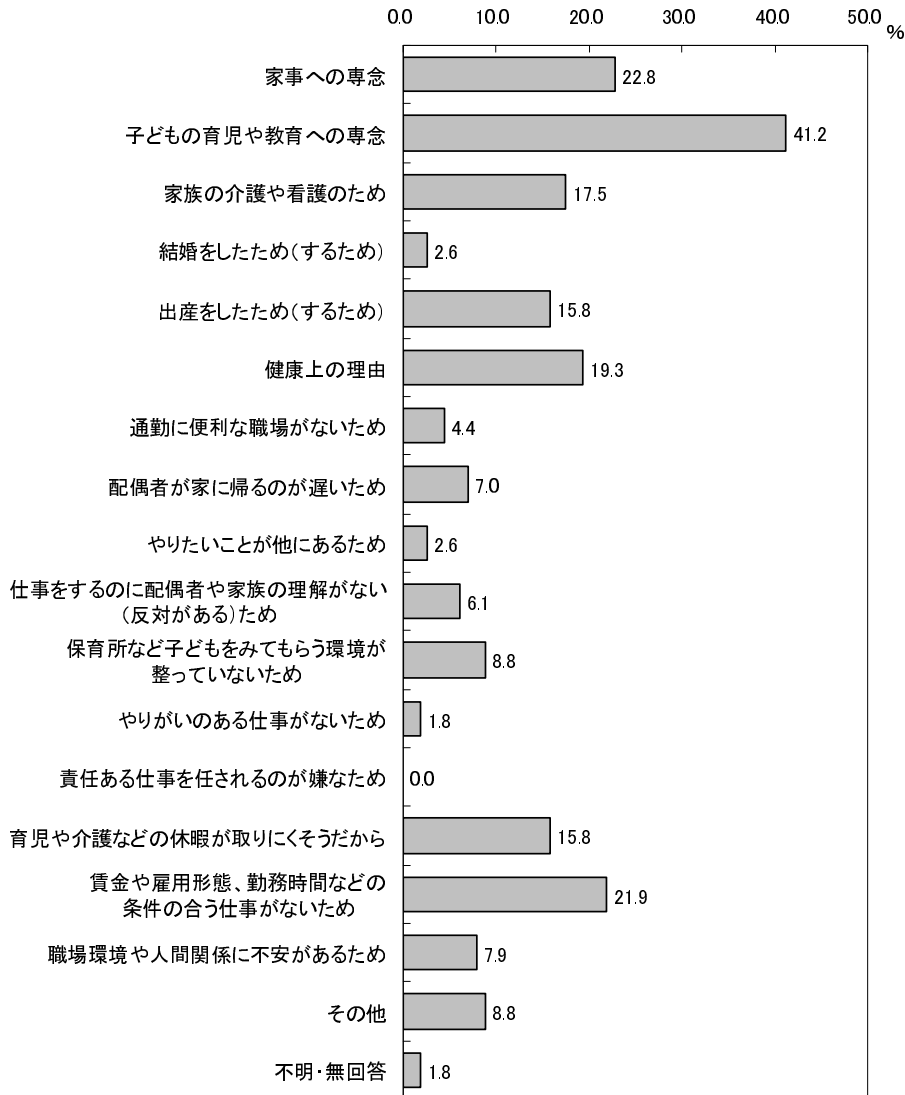
問8 その理由はなんですか。

①「働けない」理由（MA）

「子どもの育児や教育への専念」が最も高く、出産や育児、家事、介護に関連する理由が高くなっている。また、「賃金や雇用形態、勤務時間などの条件の合う仕事がないため」と「健康上の理由」も比較的高くなっている。

図13

N=114



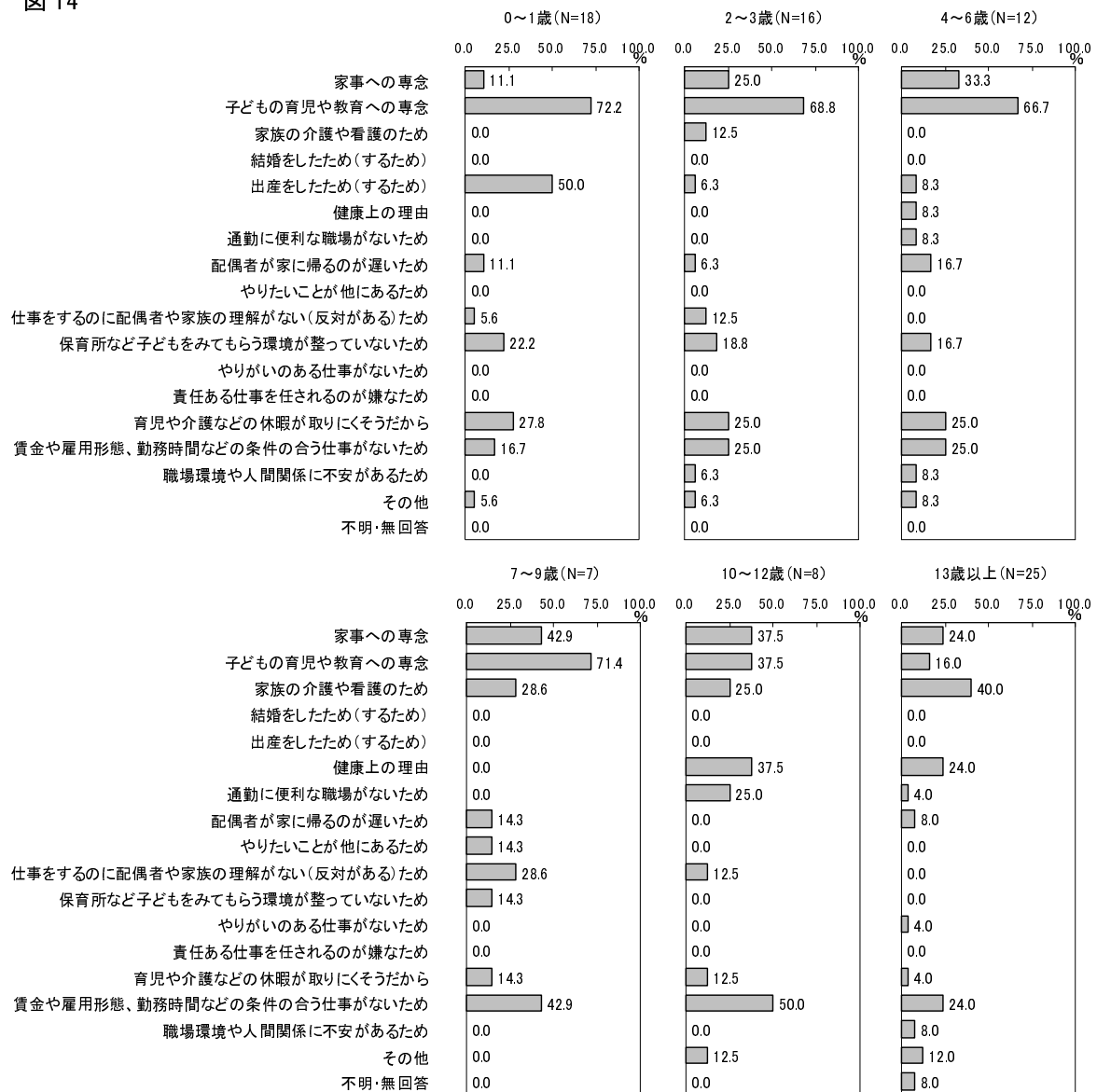
「働けない」理由を末子の年齢別にみると、「働けない」と答えた人の5割強は0～6歳までの乳幼児がいる人である。この人たちは、第一に『育児・教育に専念』するために働けないのであるが、それに引き続き、「育児や介護などの休暇が取りにくそうだから」「賃金や雇用形態、勤務時間などの条件の合う仕事がないため」という労働条件や労働環境の整備により改善できる理由が挙げられている。末子が13歳以上で「働けない」と回答した人たちの「働けない理由」では、第一位は「家族の介護や看護のため」であり、次に「家事への専念」「賃金や雇用形態、勤務時間などの条件の合う仕事がないため」が続いている。《図12、14》

問8 その理由は何ですか。

①「働けない」理由 (MA)

◆末子の年齢別クロス

図14



4. どのような条件であれば働けるのか？

- 現在仕事をしている人のうち、非正規雇用者の3割以上は今とは異なる仕事をすることを望んでいる。
- 現在働いていない人と、現在働いていて今とは違う仕事をしたい人では、働きたい状況は「正規職員・従業員」や「パート・アルバイト」を希望する人が多くなっている。勤務地としては「奈良県内」、通勤時間は『1時間未満』の割合が高くなっている。
- 現在働いていない人のうち子どもがいる人では、「パート・アルバイト」を希望する人が多くなっている。勤務地としては「奈良県内」、通勤時間については「30分以内」と「職住近接」が求められている。

現在働いている人の場合

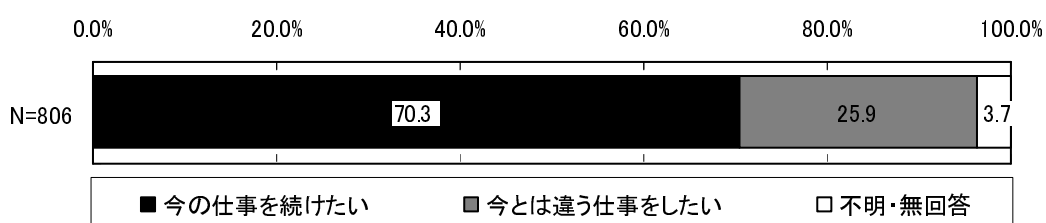
問7で「働きたい」と答えた人に、今後どのような仕事をしたいかとたずねたところ、現在働いている人のうち約7割は「今の仕事を続けたい」と回答している。《図15》

問11 今後あなたが働くとしたら、どのような仕事がしたいですか。(SA)

現在働いている方

今後したい仕事についてみると「今の仕事を続けたい」が70.3%、「今とは違う仕事をしたい」が25.9%となっている。

図15



働いている状況別では、今の仕事を続けたいとした人は、会社などの役員、正規職員・従業員で高くなっている。逆に、「派遣社員」の44.4%、「契約社員・嘱託」の31.8%、「パート・アルバイト」の30.6%が「今とは違う仕事をしたい」と回答している。非正規雇用者は、今とは異なる仕事をするのを望んでいるが、その際に、約半分の人は「正規職員・従業員」で働くことを希望している。《図16、17》

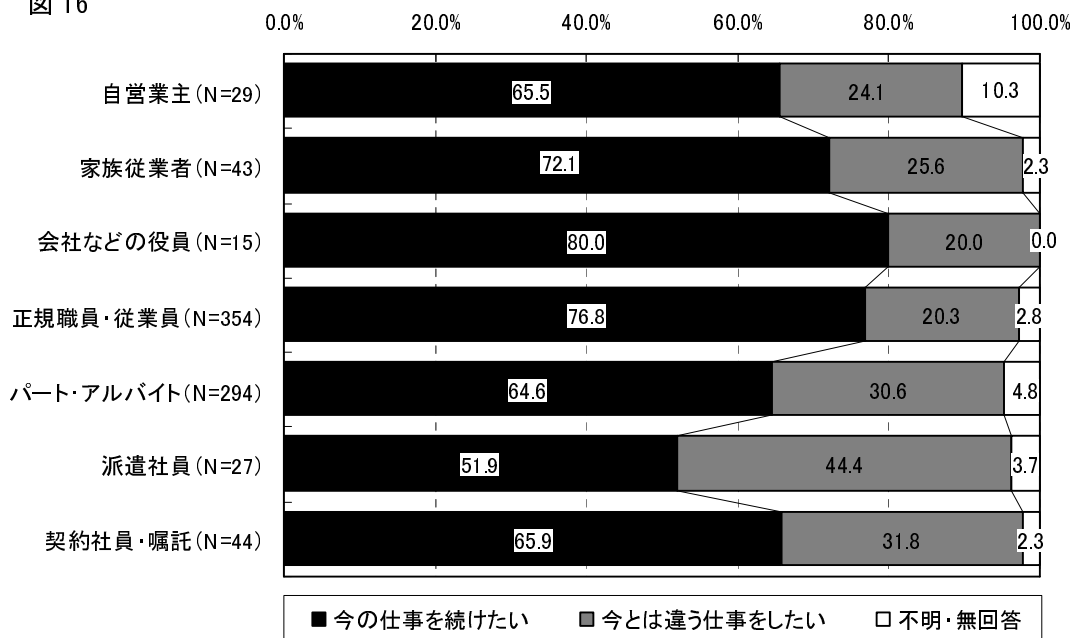
問11 今後あなたが働くとしたら、どのような仕事がしたいですか。(SA)

現在働いている方

◆働いている状況別クロス

働いている状況別にみると、「今とは違う仕事をしたい」は[パート・アルバイト][派遣社員][契約社員・嘱託]で3割以上となっている。

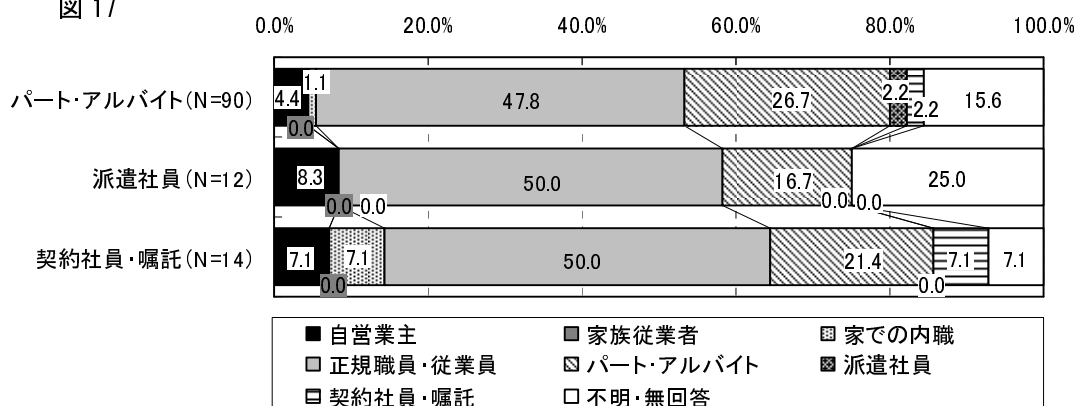
図16



問11 今後あなたが働くとしたら、どのような仕事がしたいですか。(SA)

現在、「パート・アルバイト」「派遣社員」「契約社員・嘱託」で働いている方で、「今とは違う仕事をしたい」と回答した方の働きたい状況

図17



現在働いていない人や、現在働いていて今とは違う仕事をしたい人の場合

以前働いていたが現在働いていない人たちの就労を可能にする条件は何か。

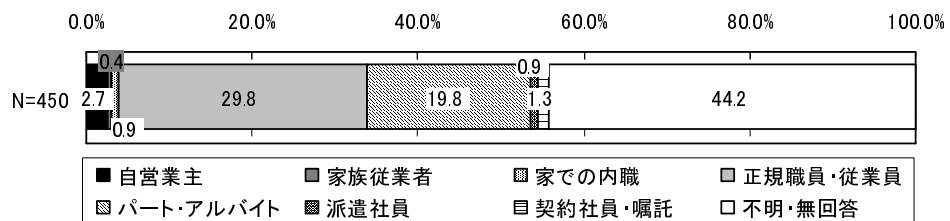
初めに、現在働いていて「今とは違う仕事をしたい人」と、「現在働いていない人」の両者が、今後働く場合に望む条件を、働きたい状況（雇用形態）、働きたい地域と通勤時間という物理的条
 件の観点からみてみると、働きたい状況（雇用形態）としては、「正規職員・従業員」が29.8%
 と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が19.8%となっている。働きたい地域は「奈良県内」
 が40.0%と最も高く、第二位の「大阪府」10.9%を大きく引き離している。通勤時間についてみ
 ると、「30分未満」が29.3%と最も高く、次いで「30分～1時間未満」が21.6%で、両者合わせ
 た『1時間未満』が約5割を占めている。《図18、19、20》

問11 今後あなたが働くとしたら、どのような仕事がしたいですか。(SA)

「正規職員・従業員」で働きたい人が29.8%となっている。
 また、働きたい地域は「奈良県内」(40.0%)であり「30分未満」(29.3%)の通勤時間
 を希望している。

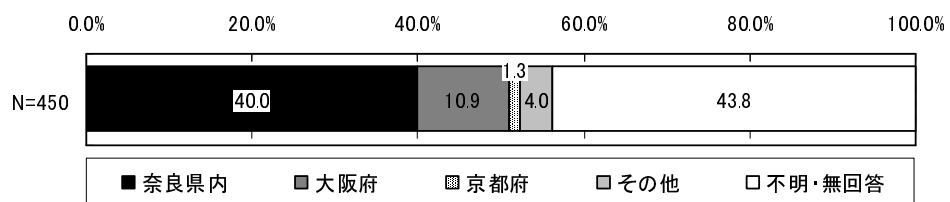
a. 働きたい状況

図18



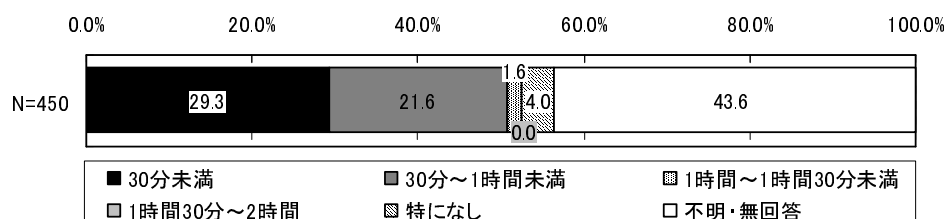
c. 働きたい地域

図19



d. 通勤時間

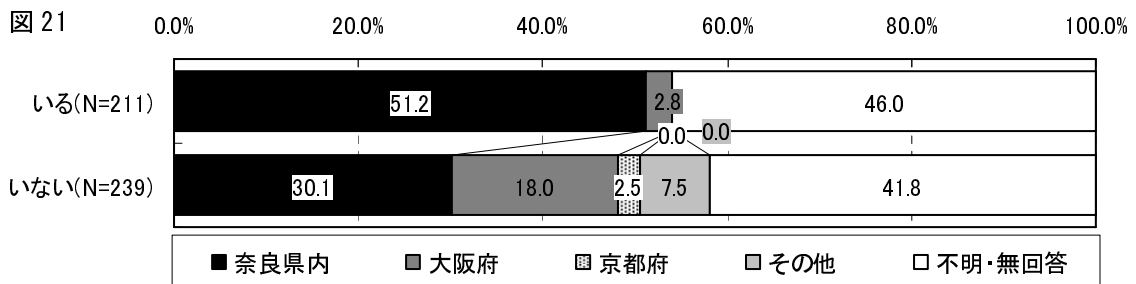
図20



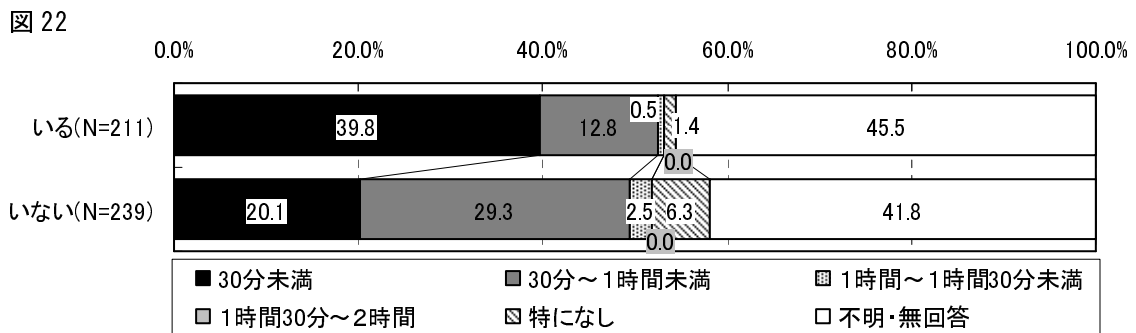
次に、「働いていたが現在働いていない人」のうち子どものいる人についてみると、「正規職員・従業員」を希望する人は1.3%であり、「パート・アルバイト」を希望する15.3%よりも少なくなっている。子どものいない人（現在未婚の学生を含む）で「正規職員・従業員」を望む人が13.4%いることとくらべると、子どものいる人は、「正規職員・従業員」ではなく「パート・アルバイト」を希望する人が多くなっている。働きたい地域については、子どもの有無にかかわらず「奈良県内」を希望している人が多いが、その割合は特に子どものいる人で高い。通勤時間に関しては、子どものいない人では「30～1 時間未満」が最も多いが、子どものいる人では、末子の年齢にかかわらず「30分未満」が最も高くなっている。つまり、結婚や出産・育児などによって仕事をやめて今後また仕事を持つことを望んでいる大多数の人は、「奈良県内」で、しかも通勤時間「30分以内」で働くことを望んでいる。《図 21、22、23》子どものいる母親にとっては、「職住近接」が今後働くことを可能にする重要な条件といえる。

問 11 今後あなたが働くとしたら、どのような仕事がしたいですか。(SA) 子どもの有無別

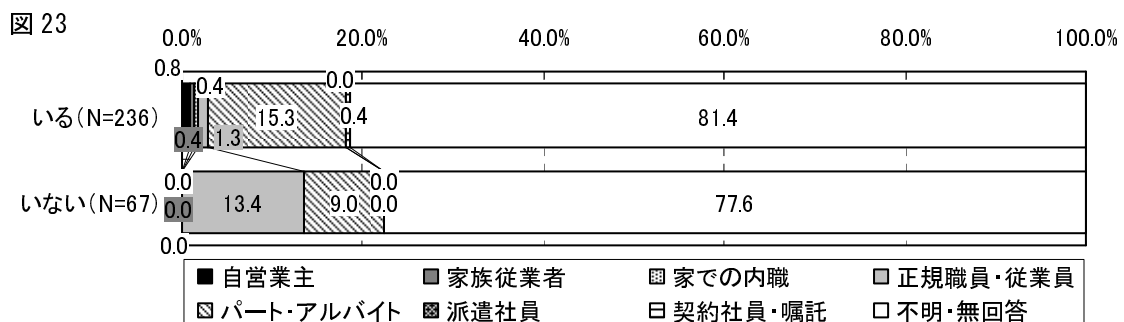
c. 働きたい地域



d. 通勤時間



◆「働いていたが現在働いていない人」のうちの働きたい状況について子どもの有無別クロス



5. 女性が働くために必要な環境とは？

- 女性が働くために必要なことは、家庭内では「夫の理解や協力」、職場では「育児や介護などの休暇制度の充実や休暇が取りやすい職場環境」である。行政に対しては特に「育児や介護などの休暇制度の充実や取りやすい職場環境づくりの啓発」の回答が多くなっている。
- 働く上での女性の不安と悩みは、働いていたが現在働いていない人や、今後働けないと回答した人の多くは仕事と家庭の両立を可能にする勤務条件や職場環境の未整備に関する回答が多い。
- 女性の就業を促進するためには、仕事と家庭の両立が可能とする労働条件や職場環境の整備が必要不可欠である。

女性が働くために必要な環境－意識・家族・職場

女性自身の意識や環境について必要なことは（複数回答）、「子育ての負担の軽減」「育児や介護などの各種制度の認識・理解」「家族の介護や看護の負担の軽減」であるという回答が多くなっている。《図24》

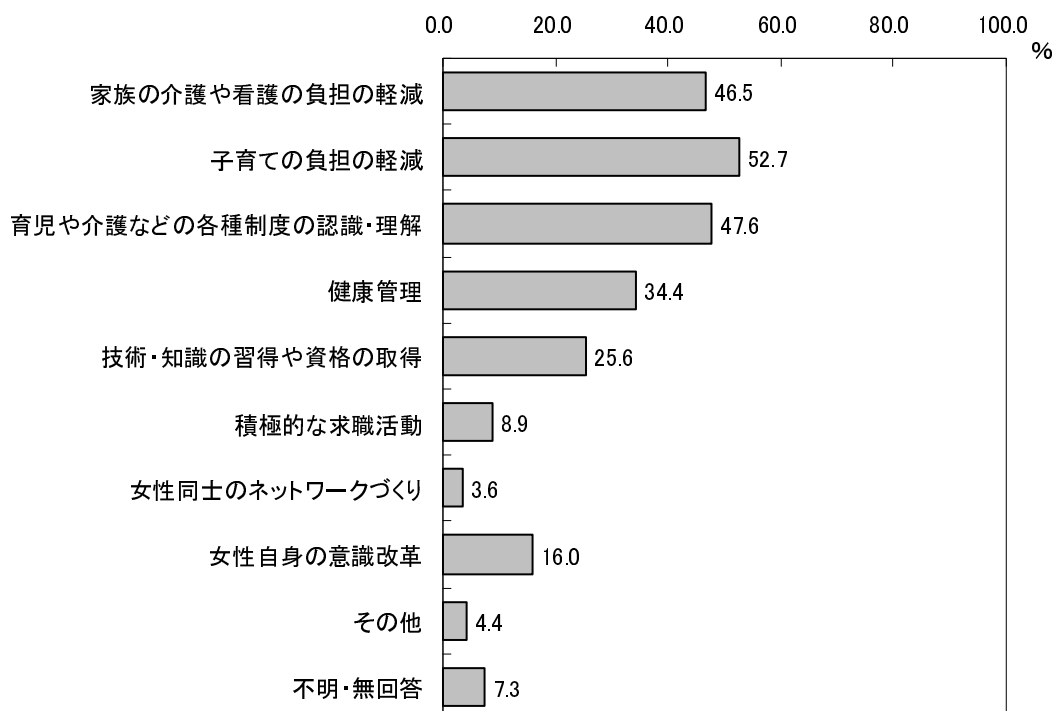
問12 女性が働くには（働き続けるには）何が重要だと思いますか。

女性自身の意識や環境について（MA）

女性自身の意識や環境については、「子育ての負担の軽減」が52.7%と最も高く、次いで「育児や介護などの各種制度の認識・理解」が47.6%、「家族の介護や看護の負担の軽減」が46.5%となっている。

図24

N=1,182



「子育ての負担の軽減」については、未婚か既婚か、現在働いているかいないか、子どもがいるかいないかにかかわらず、回答率が高くなっている。ただし、子どもの年齢別にみると、13歳以上の子どものみを持つ人に限って第一に重要なことは「家族の介護や看護の負担の軽減」となっている。この年齢層の女性の場合は、既に育児を終了し、高齢者の介護などへとその役割が移行していることを示している。《図 25、26、27、28》

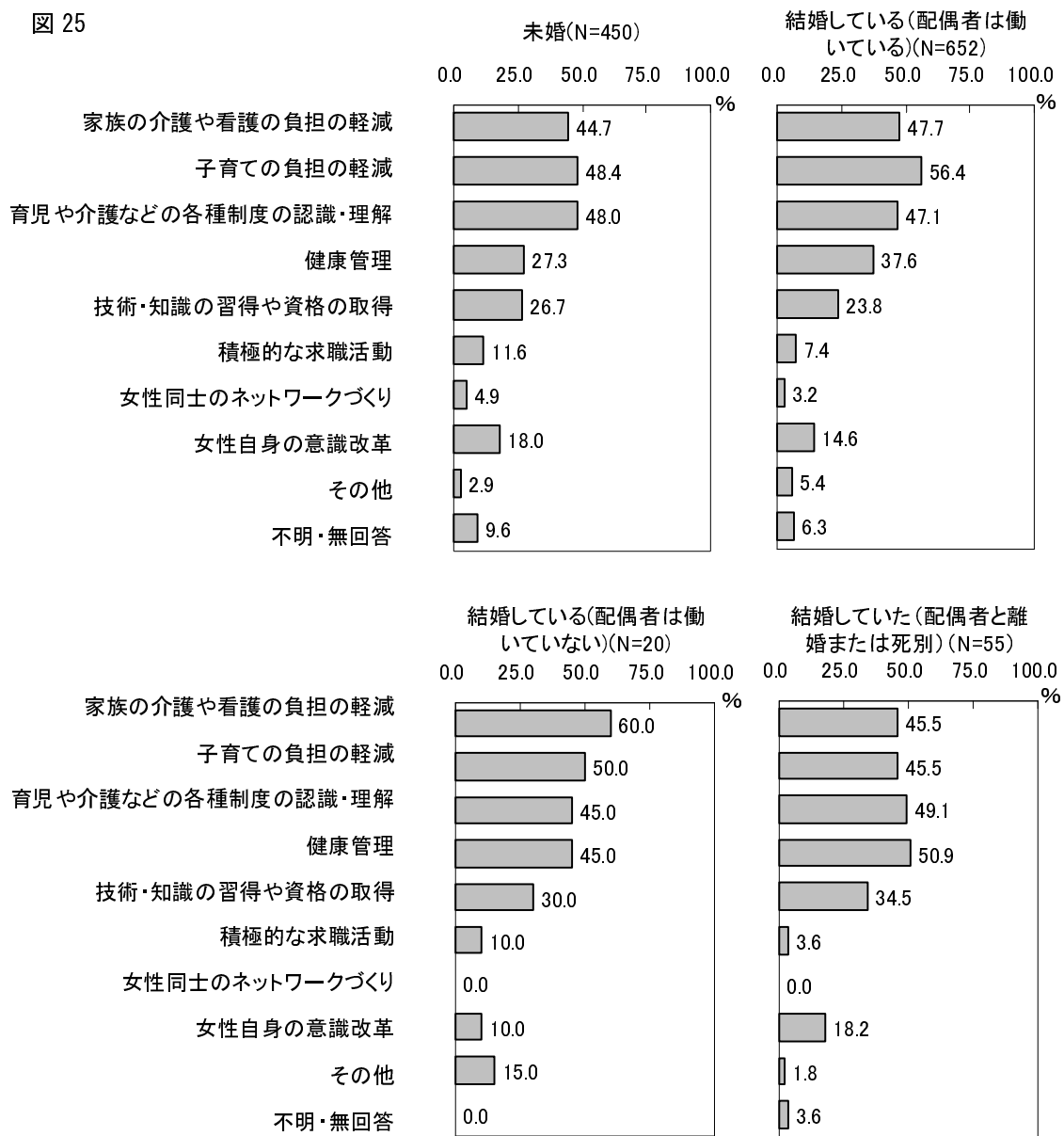
問 12 女性が働くには（働き続けるには）何が必要だと思いますか。

女性自身の意識や環境について（MA）

◆婚姻状況別クロス

婚姻状況別にみると、[結婚している（配偶者は働いていない）]では「家族の介護や看護の負担の軽減」、[結婚していた（配偶者と離婚または死別）]では「健康管理」の割合が最も高くなっている。

図 25



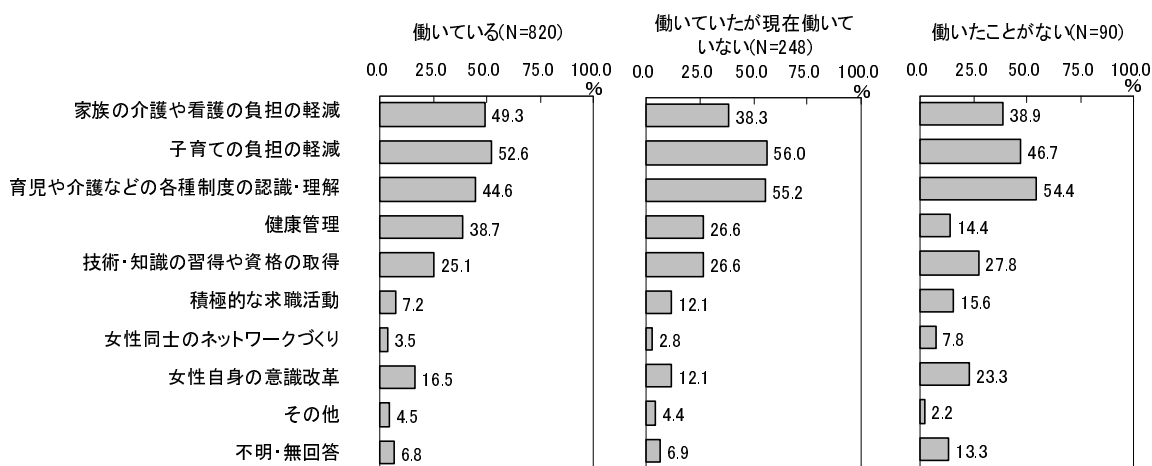
問 12 女性が働くには（働き続けるには）何が必要だと思いますか。

女性自身の意識や環境について（MA）

◆就労状況別クロス

就労状況別にみると、大きな傾向の違いはみられないが、[働いている]では「健康管理」、[働いていたが現在は働いていない][働いたことがない]では「育児や介護などの各種制度の認識・理解」も割合が高くなっている。また、[働いたことがない]では「女性自身の意識改革」も他の階層にくらべて高くなっている。

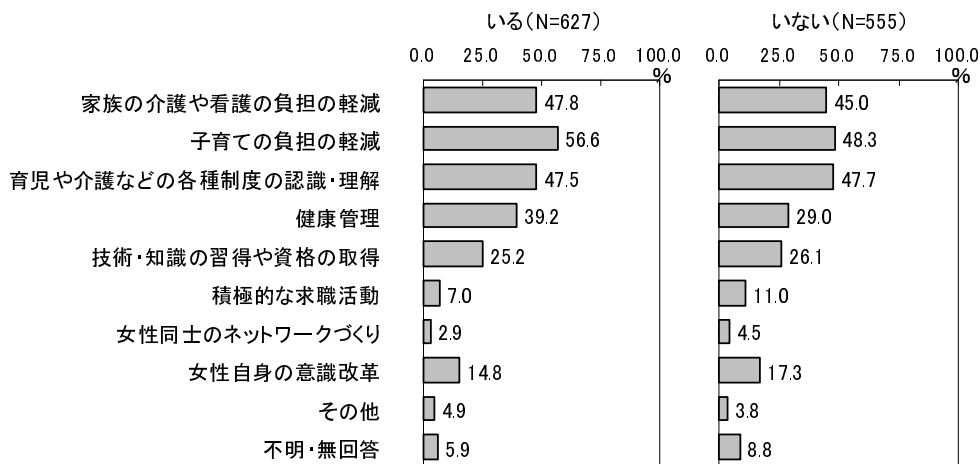
図 26



◆子どもの有無別クロス

子どもの有無別にみると、[いない]より[いる]の方が「健康管理」の割合が高くなっている。

図 27



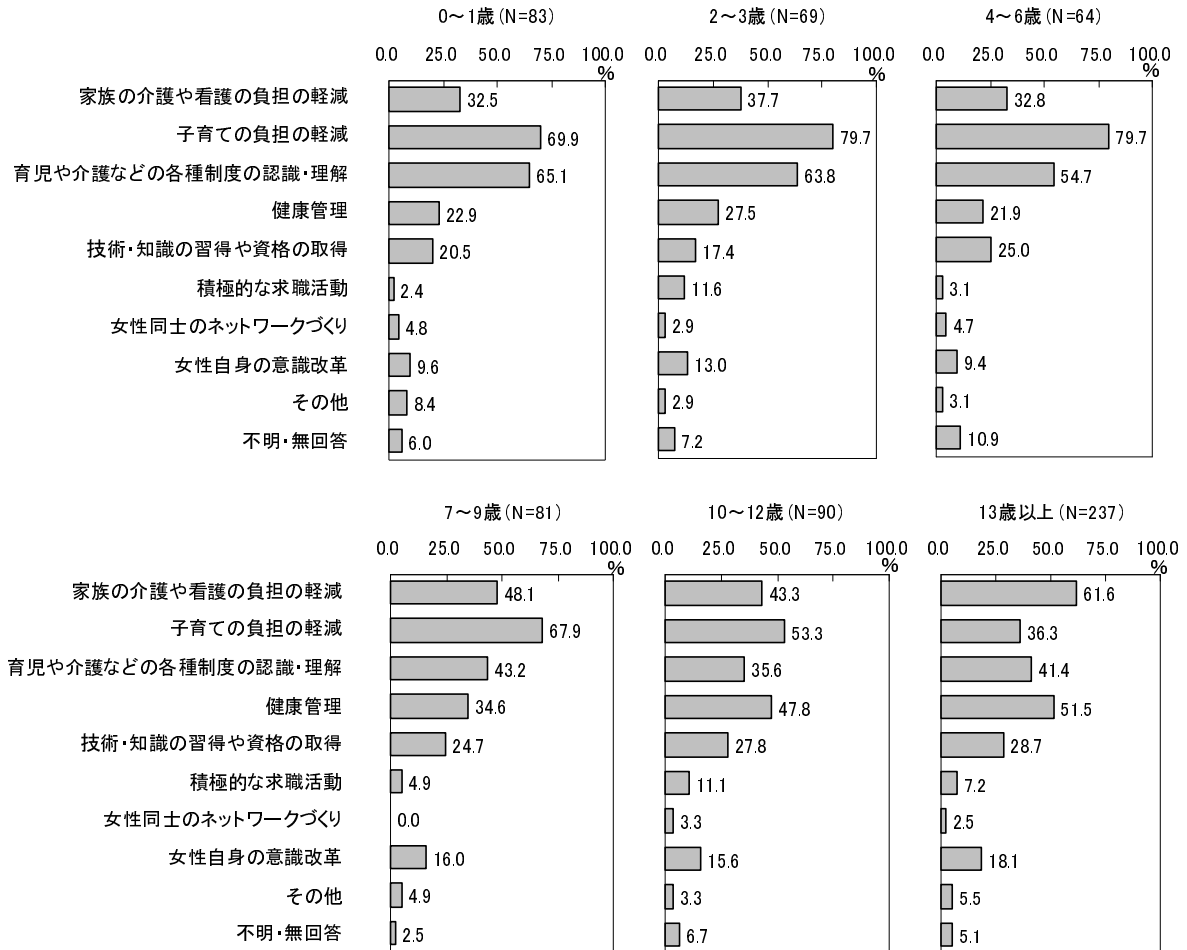
問 12 女性が働くには（働き続けるには）何が必要だと思いますか。

女性自身の意識や環境について（MA）

◆末子の年齢別クロス

末子の年齢別にみると、「子育ての負担の軽減」の割合は『0～9歳』で高く、『7歳以上』では年齢が上がるにつれて低くなっている。

図 28



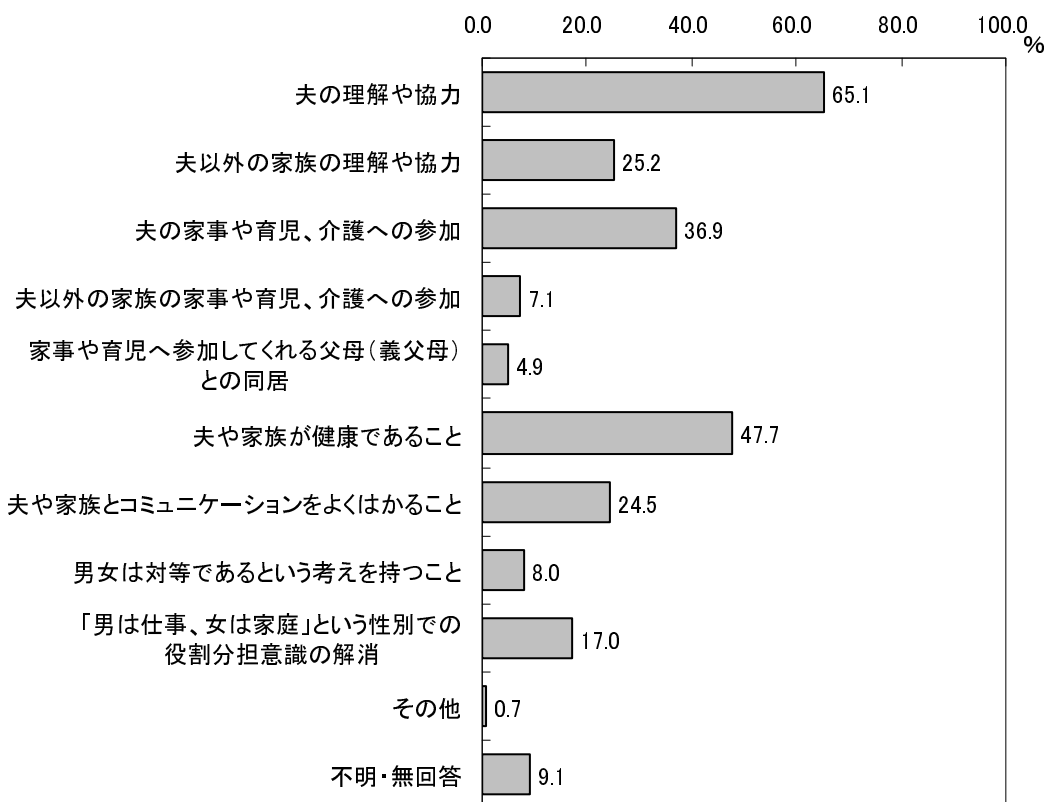
夫や家族に求めるものは、「夫の理解や協力」、「夫や家族が健康であること」、「夫の家事や育児、介護への参加」が多くなっている。「夫の理解や協力」については、現在働いているかいないか、子どもがいるかいないか、未婚か既婚かにかかわらず、最も回答率が高くなっている。《図 29、30、31、32》

問 12 女性が働くには（働き続けるには）何が必要だと思いますか。
夫や家族に対して（MA）

夫や家族に対してでは、「夫の理解や協力」が 65.1%と最も高く、次いで「夫や家族が健康であること」が 47.7%、「夫の家事や育児、介護への参加」が 36.9%となっている。

図 29

N=1,182



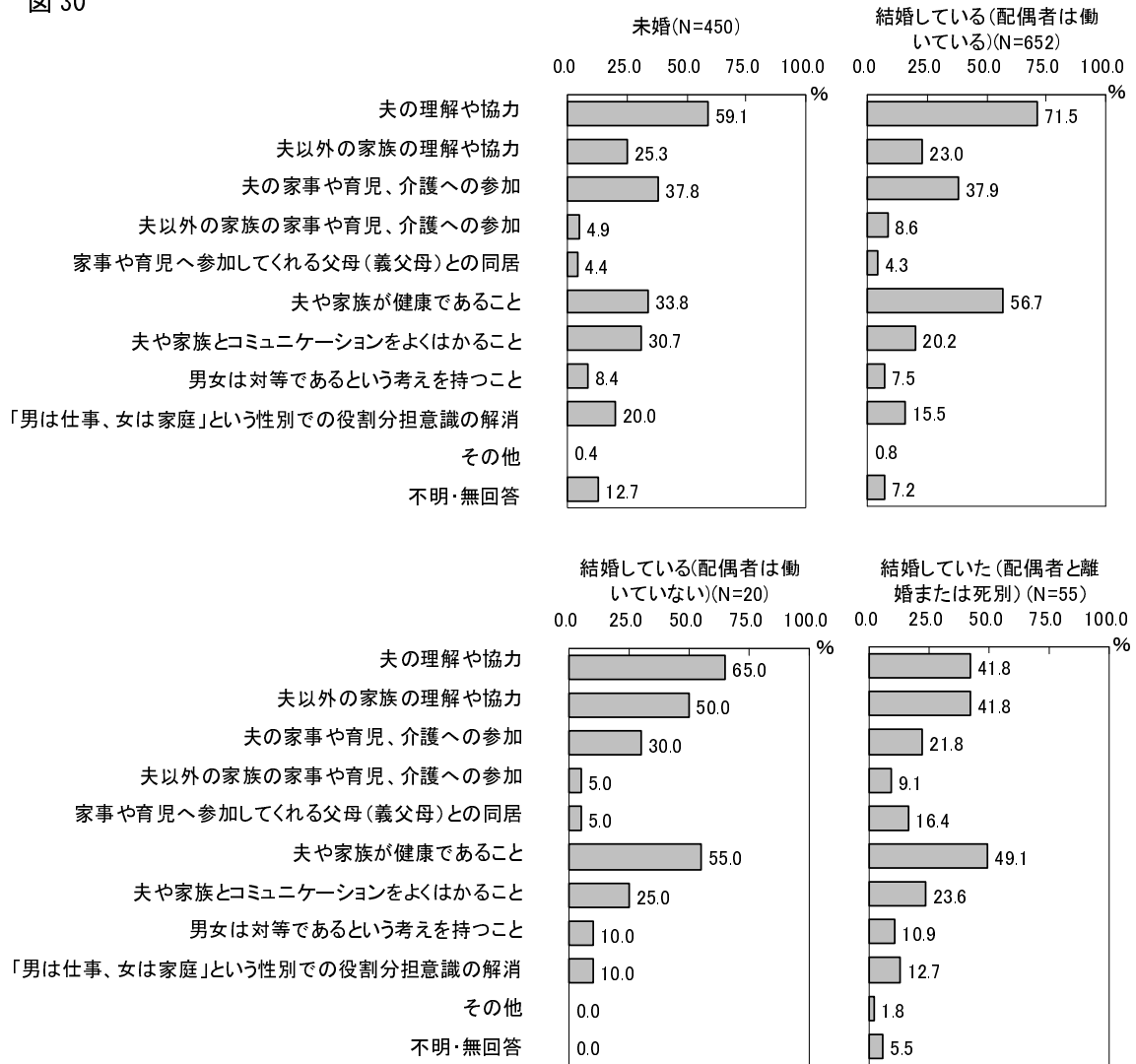
問 12 女性が働くには（働き続けるには）何が必要だと思いますか。

夫や家族に対して（MA）

◆婚姻状況別クロス

婚姻状況別にみると、「夫の理解や協力」のほかに、[未婚]では『男は仕事、女は家庭』という性別での役割分担意識の解消」が他に比べて高く、『結婚している』『結婚していた（配偶者と離婚または死別）』では「夫や家族が健康であること」が高くなっている。

図 30



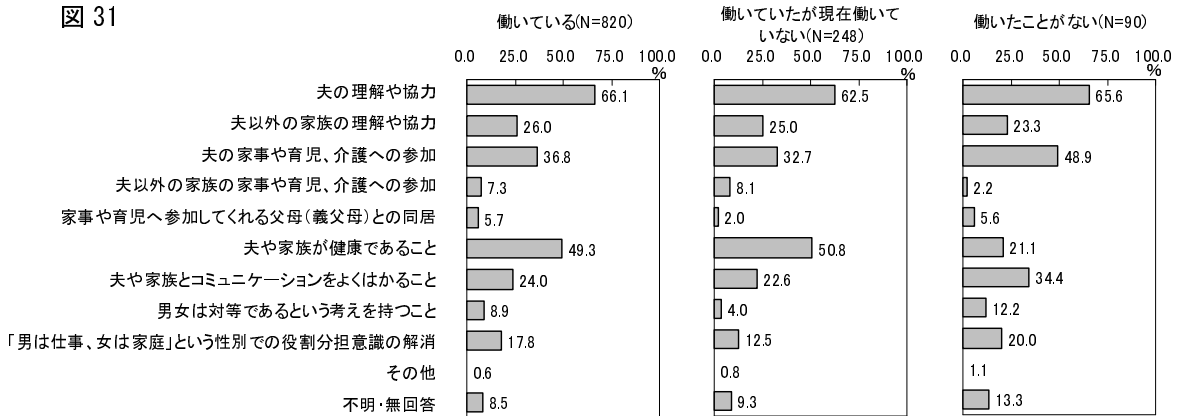
問 12 女性が働くには（働き続けるには）何が必要だと思いますか。

夫や家族に対して（MA）

◆就労状況別クロス

就労状況別にみると、各階層とも「夫の理解や協力」の割合が最も高く、[働いている] [働いていたが現在働いていない] では、「夫や家族が健康であること」の割合も高く、[働いたことがない] では「夫の家事や育児、介護への参加」の割合も高くなっている。

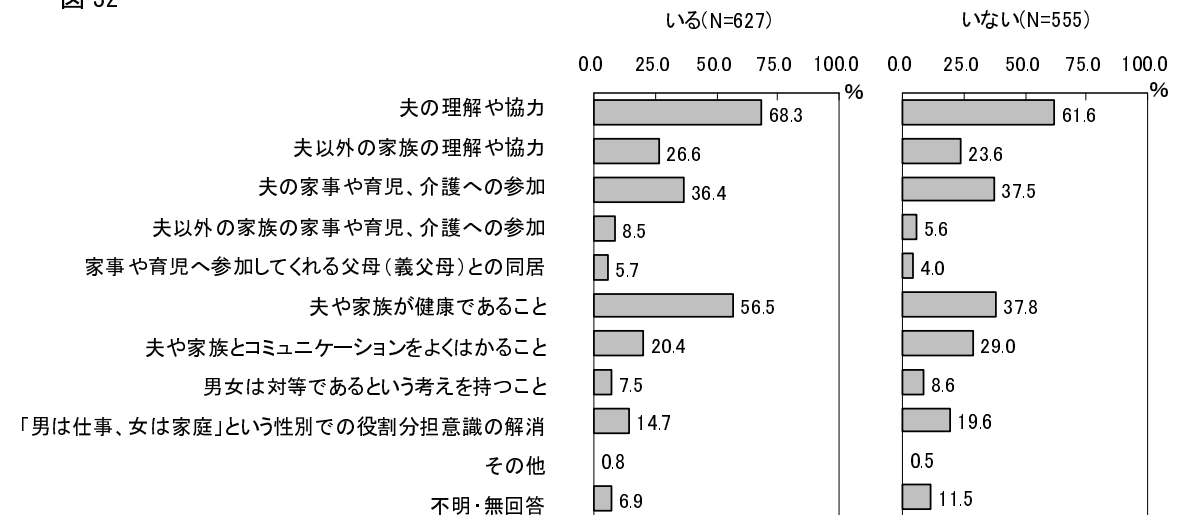
図 31



◆子どもの有無別クロス

子どもの有無別にみると、[いない]より[いる]で「夫や家族が健康であること」の割合が高くなっている。

図 32



「夫の理解や協力」に並んで高い回答率となっているのは、行政に対する「育児や介護などの休暇制度の充実や取りやすい職場環境づくりの啓発」となっている。《図 33》

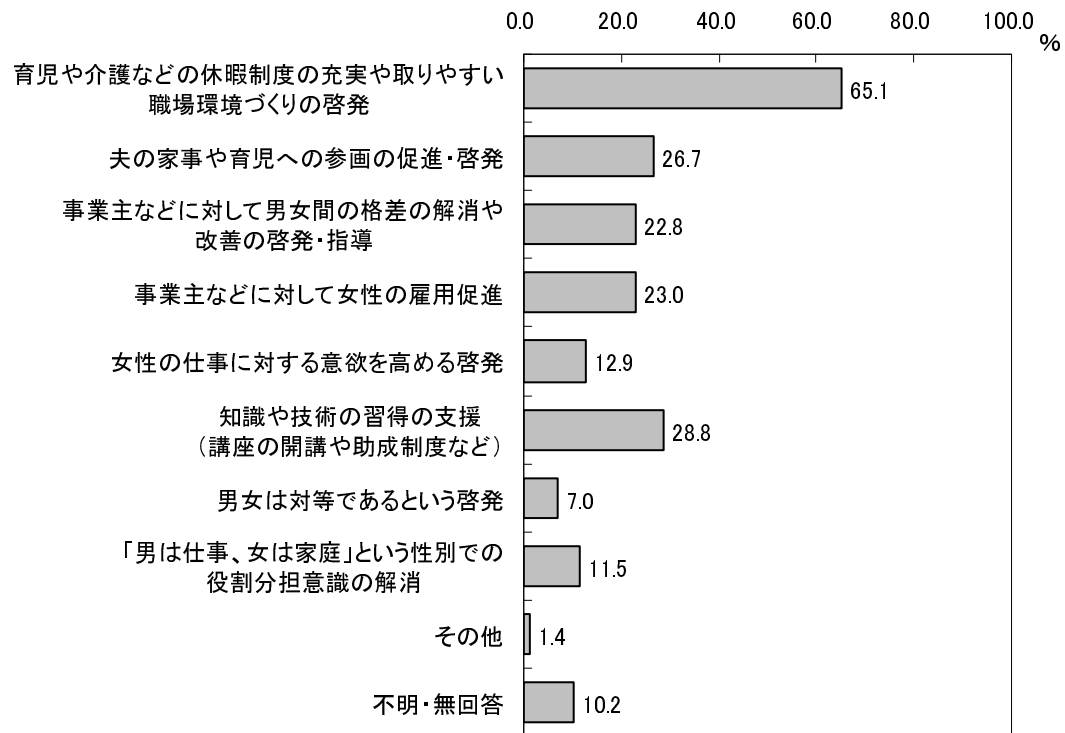
問 12 女性が働くには（働き続けるには）何が必要だと思いますか。

行政に対して（啓発について）(MA)

行政に対して（啓発について）では、「育児や介護などの休暇制度の充実や取りやすい職場環境づくりの啓発」が 65.1%と最も高く、次いで「知識や技術の習得の支援（講座の開講や助成制度など）」が 28.8%、「夫の家事や育児への参画の促進・啓発」が 26.7%となっている。

図 33

N=1,182



職場に対して求めるものでは、「育児や介護などの休暇制度の充実や休暇が取りやすい職場環境」と、ここでも育児及び介護などに関する制度を利用しやすい環境が求められている。

《図 34》

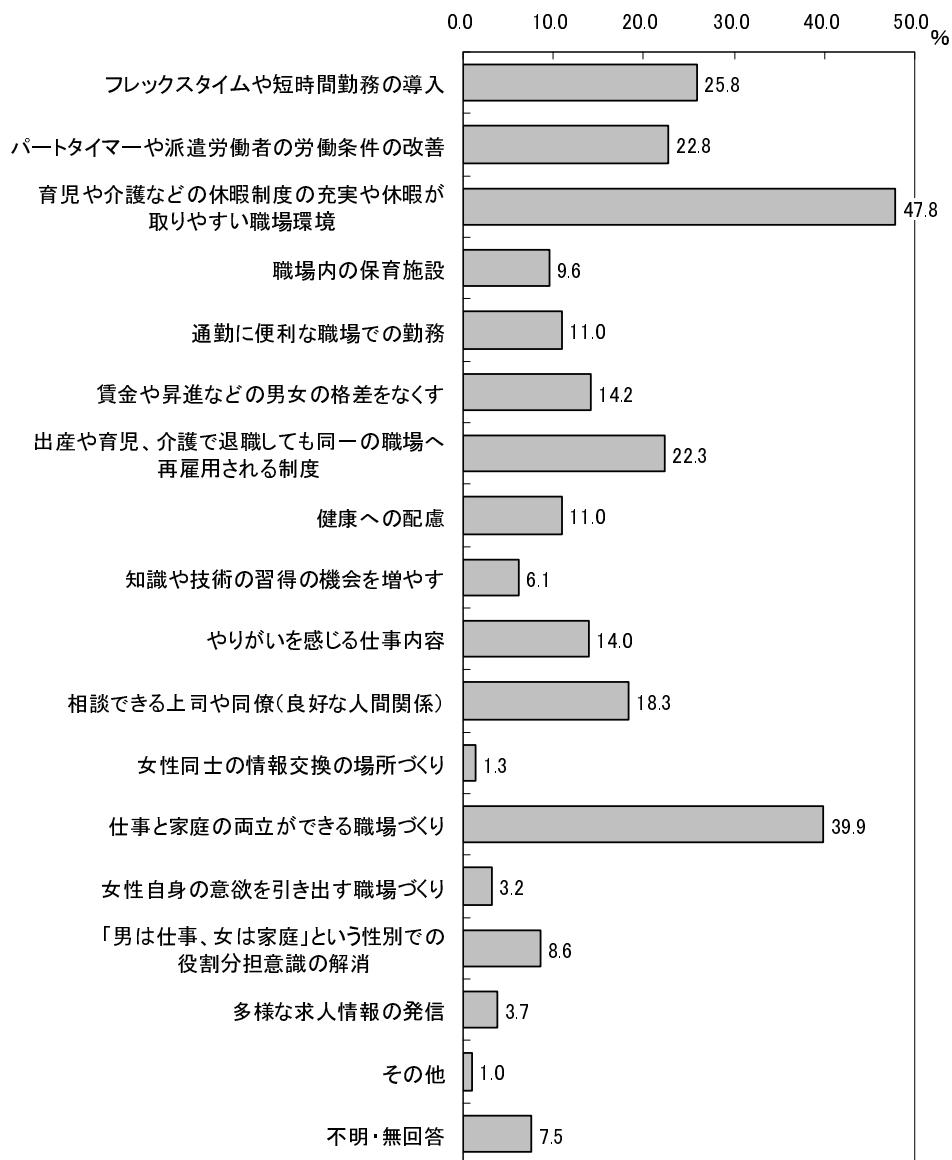
問 12 女性が働くには（働き続けるには）何が必要だと思いますか。

職場に対して（MA）

職場に対しては、「育児や介護などの休暇制度の充実や休暇が取りやすい職場環境」が 47.8%と最も高く、次いで「仕事と家庭の両立ができる職場づくり」が 39.9%、「フレックスタイムや短時間勤務の導入」が 25.8%となっている。

図 34

N=1,182



働く上での女性の不安と悩み

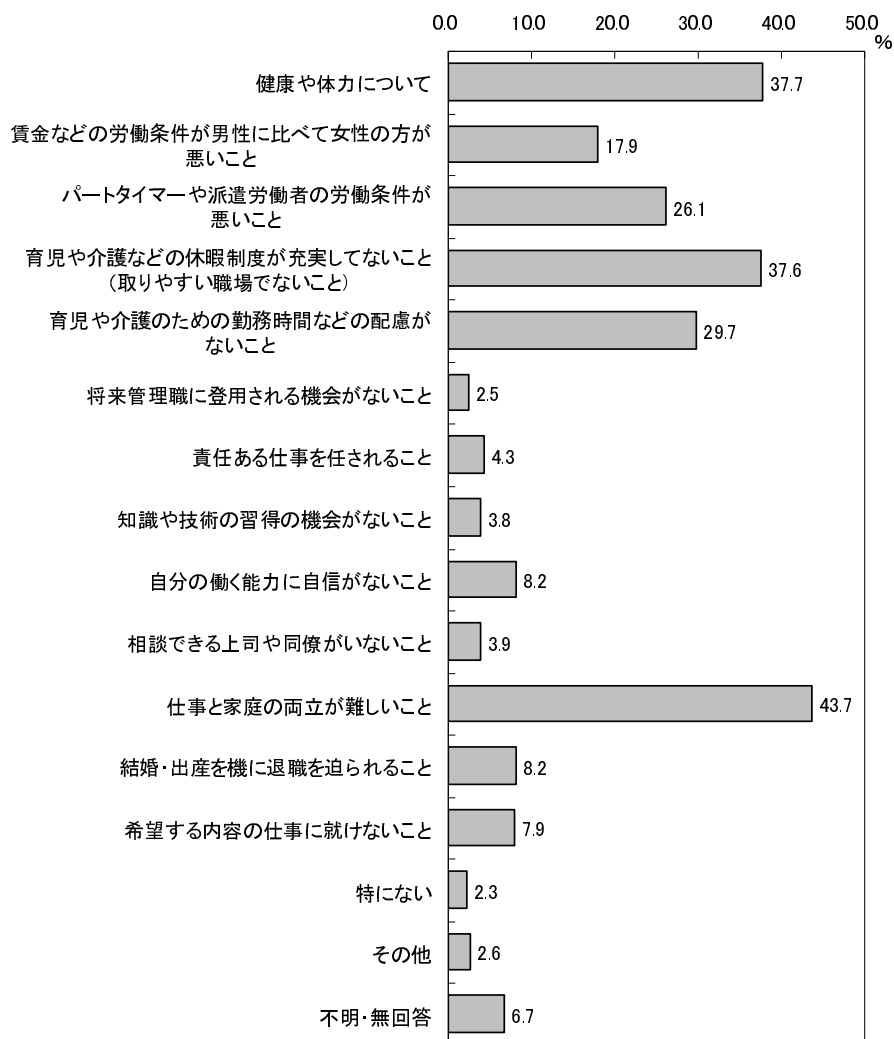
働くことに関する女性の主な悩みについてみると、「仕事と家庭の両立が難しいこと」「健康や体力について」、「育児や介護などの休暇制度が充実してないこと（取りやすい職場でないこと）」が挙げられている。健康や体力の問題を除くと、育児休暇や介護休暇などが取りにくいことにより仕事と家庭の両立が難しいという問題が明らかになってくる。《図 35》

問 13 女性が働くのに（働き続けるのに）不安なことや悩みはなんですか。（MA）

女性が働くのに（働き続けるのに）不安なことや悩みについてみると、「仕事と家庭の両立が難しいこと」が 43.7%と最も高く、次いで「健康や体力について」が 37.7%、「育児や介護などの休暇制度が充実してないこと（取りやすい職場でないこと）」が 37.6%となっている。

図 35

N=1,182



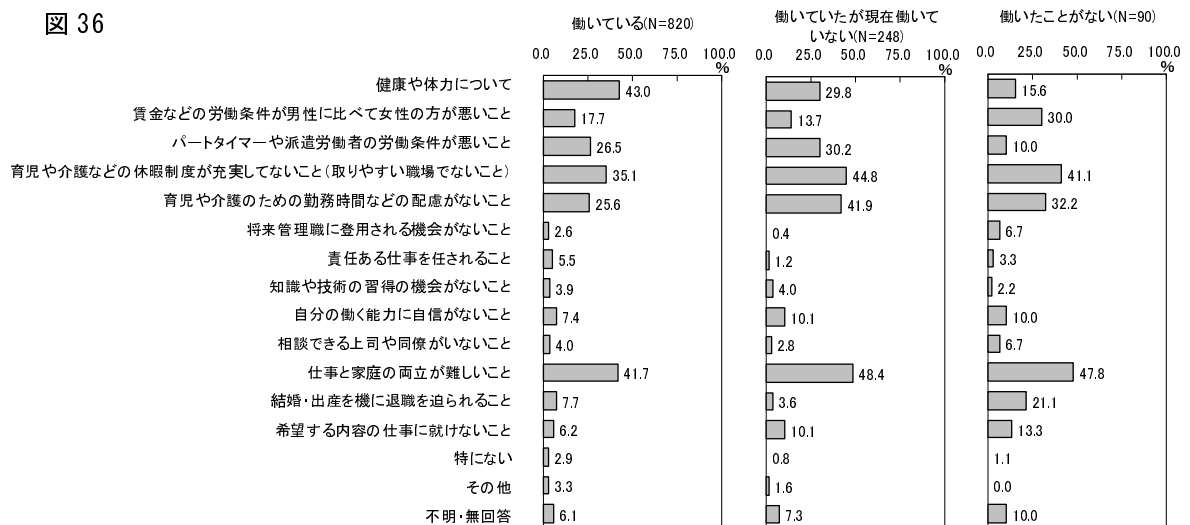
働いていたが現在働いていない人や、働けないと回答した人の多くは「育児や介護のための勤務時間などの配慮がないこと」など仕事と家庭の両立を可能にする勤務条件や職場環境の未整備を具体的に指摘する項目の回答が多くなっている。《図 36、37》

問 13 女性が働くのに（働き続けるのに）不安なことや悩みはなんですか。（MA）

◆就労状況別クロス

就労状況別にみると、[働いていたが現在働いていない] では「育児や介護などの休暇制度が充実してないこと（取りやすい職場でないこと）」の割合が他の階層とくらべて高くなっている。

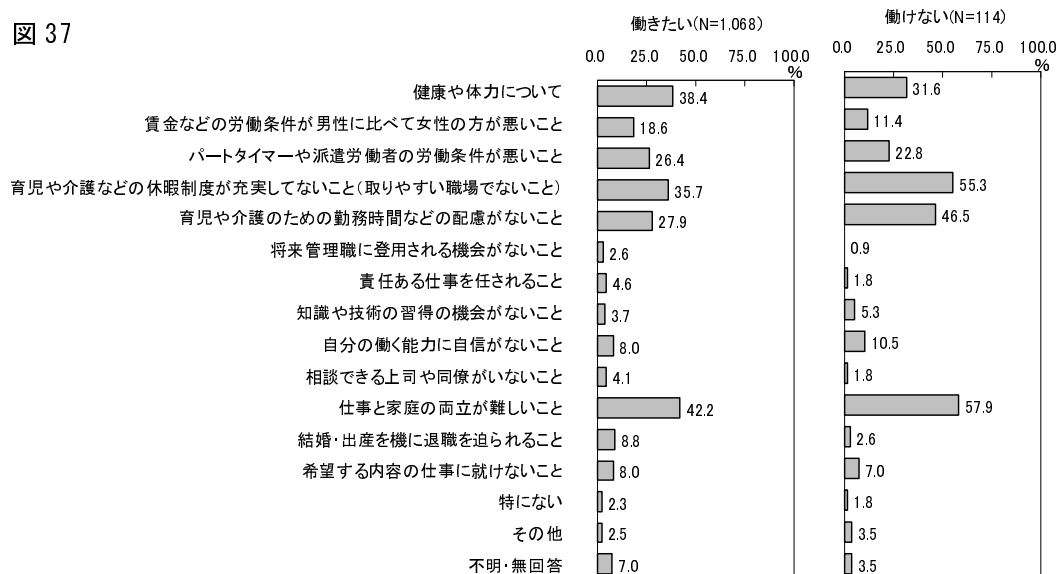
図 36



◆今後の就労意向別クロス

今後の就労意向別にみると、[働けない] では「育児や介護などの休暇制度が充実してないこと（取りやすい職場でないこと）」の割合が[働きたい] とくらべて特に高くなっている。

図 37



また、本人の年齢が高い人ほど、同様に子どもの年齢が高い人ほど、「健康や体力」の悩みが多くなることから、女性が働き続けるためには、健康の維持管理ということも重要な課題である。

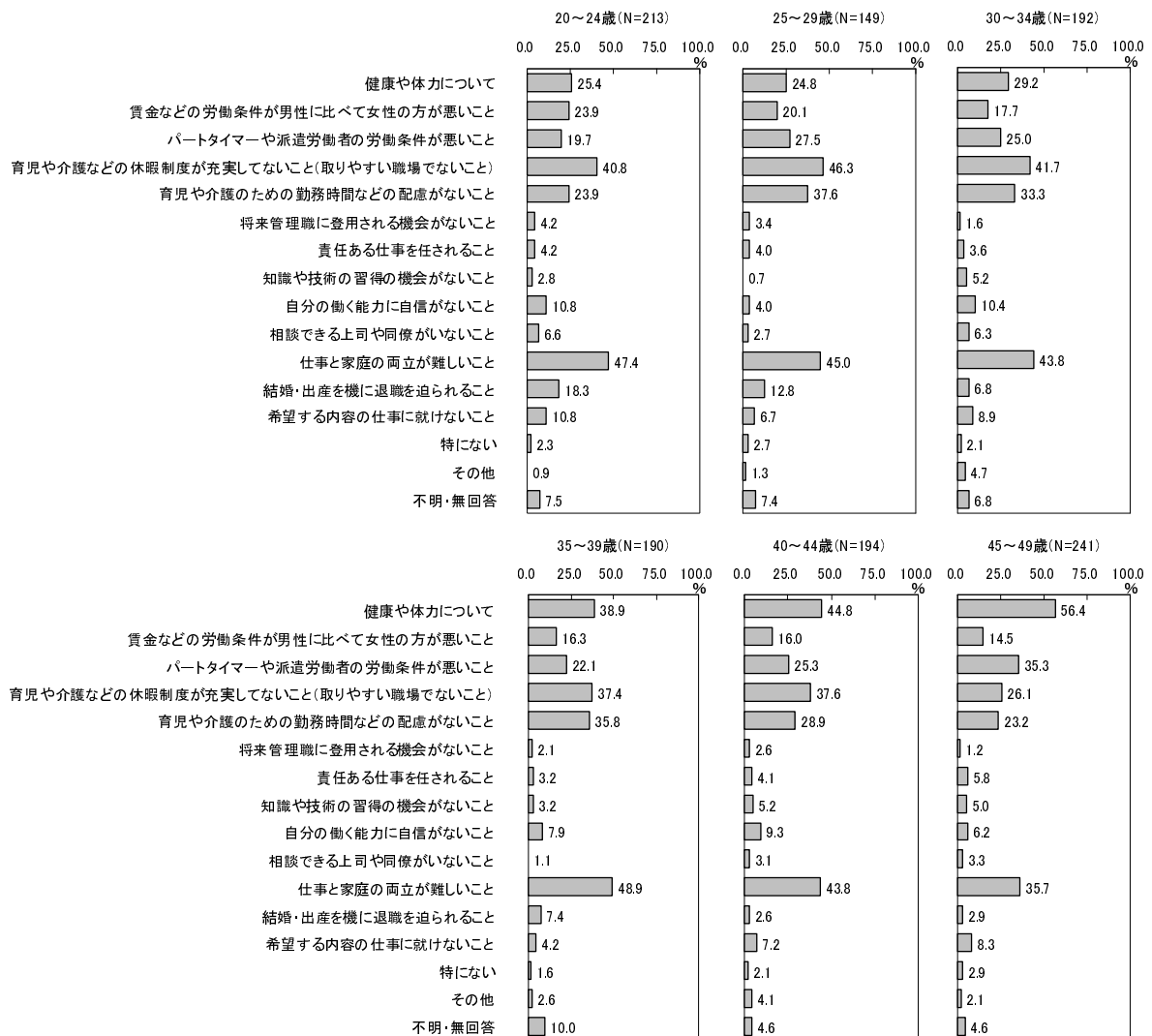
《図 38、39》

問 13 女性が働くのに（働き続けるのに）不安なことや悩みはなんですか。（MA）

◆回答者の年齢別クロス

年齢別にみると、[20～24歳]と『30歳代』では「仕事と家庭の両立が難しいこと」の割合が最も高くなっている。[25～29歳]では「育児や介護などの休暇制度が充実してないこと（取りやすい職場でないこと）」の割合が最も高く、『40歳代』では「健康や体力について」の割合が最も高くなっている。

図 38

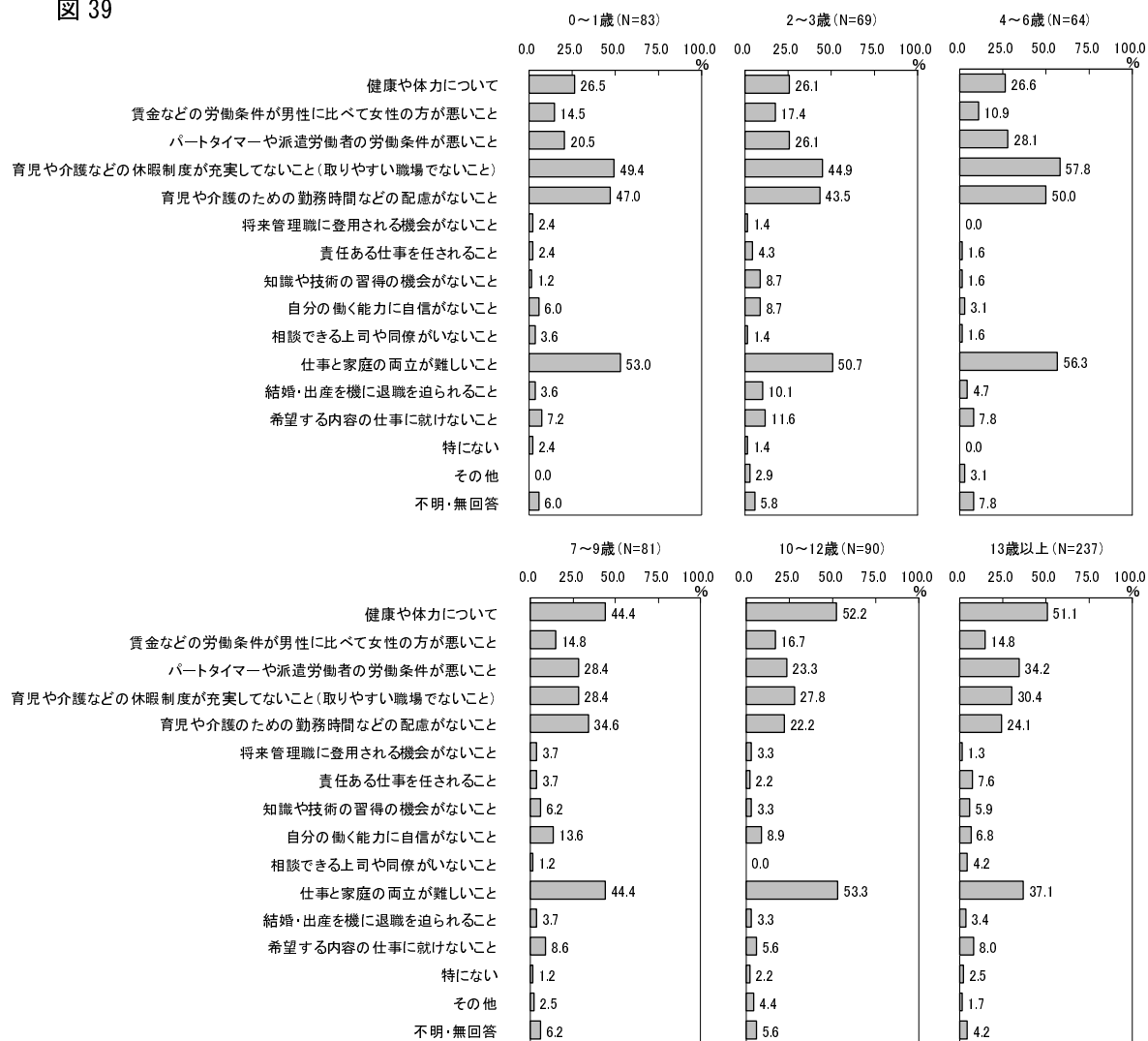


問 13 女性が働くのに（働き続けるのに）不安なことや悩みはなんですか。（MA）

◆末子の年齢別クロス

末子の年齢別にみると、「育児や介護などの休暇制度が充実してないこと（取りやすい職場でないこと）」「育児や介護のための勤務時間などの配慮がないこと」の割合について『0～6歳』が『7歳以上』よりも高くなっている。

図 39



6. 女性の生き方の理想と現実

○《理想》としては「就業継続型（両立型）」がもっとも支持されているが、《現実》に女性たちが歩んでいる生き方は「一時退職再就職型」が最も多い。

回答者全体によって最も支持された理想の女性の生き方（以下《理想》とする）は、結婚・出産後も仕事を続ける「就業継続型（両立型）」（「⑤出産後も仕事を続ける【結婚後も仕事を続ける】」）、次に、結婚や出産によって一時退職し、その後再就職する「一時退職再就職型」（「②家事、育児→就労（パート含む）【結婚による退職】」、「④家事、育児→就労（パート含む）【出産による退職】」）であった。

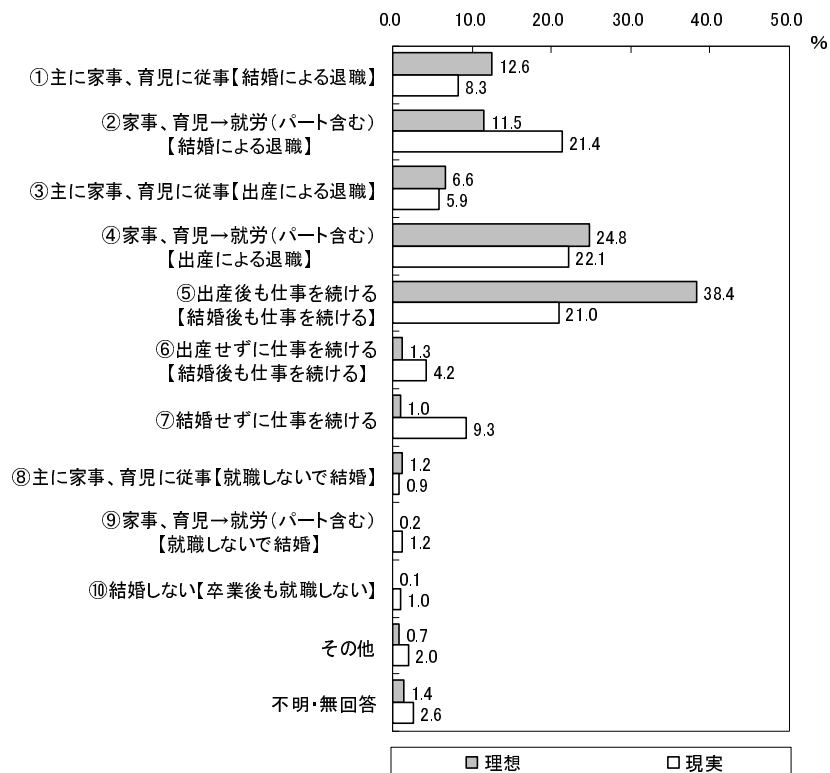
現実の（予定される）女性の生き方（以下《現実》とする）をみると、結婚や出産によって一時退職し、その後再就職する「一時退職再就職型」が最も多くなり、理想で最も支持されていた「就業継続型（両立型）」に大差をつける結果となっている。《図 40》

問 14 女性の生き方の《理想》と《現実》についてお聞きします。

女性の生き方の理想についてみると、「⑤出産後も仕事を続ける【結婚後も仕事を続ける】」が38.4%と最も高くなっているのに対し、現実では21.0%と17.4ポイントの差が生じている。

図 40

N=1,369



平成12年に奈良県が実施した「男女共同参画についてのアンケート」では、「理想」として「就業継続型（両立型）」を挙げる女性は30.5%であった。この調査と比較すると、「就業継続型（両立型）」を支持する意識は女性たちの間で着実に高くなっていることがわかる。

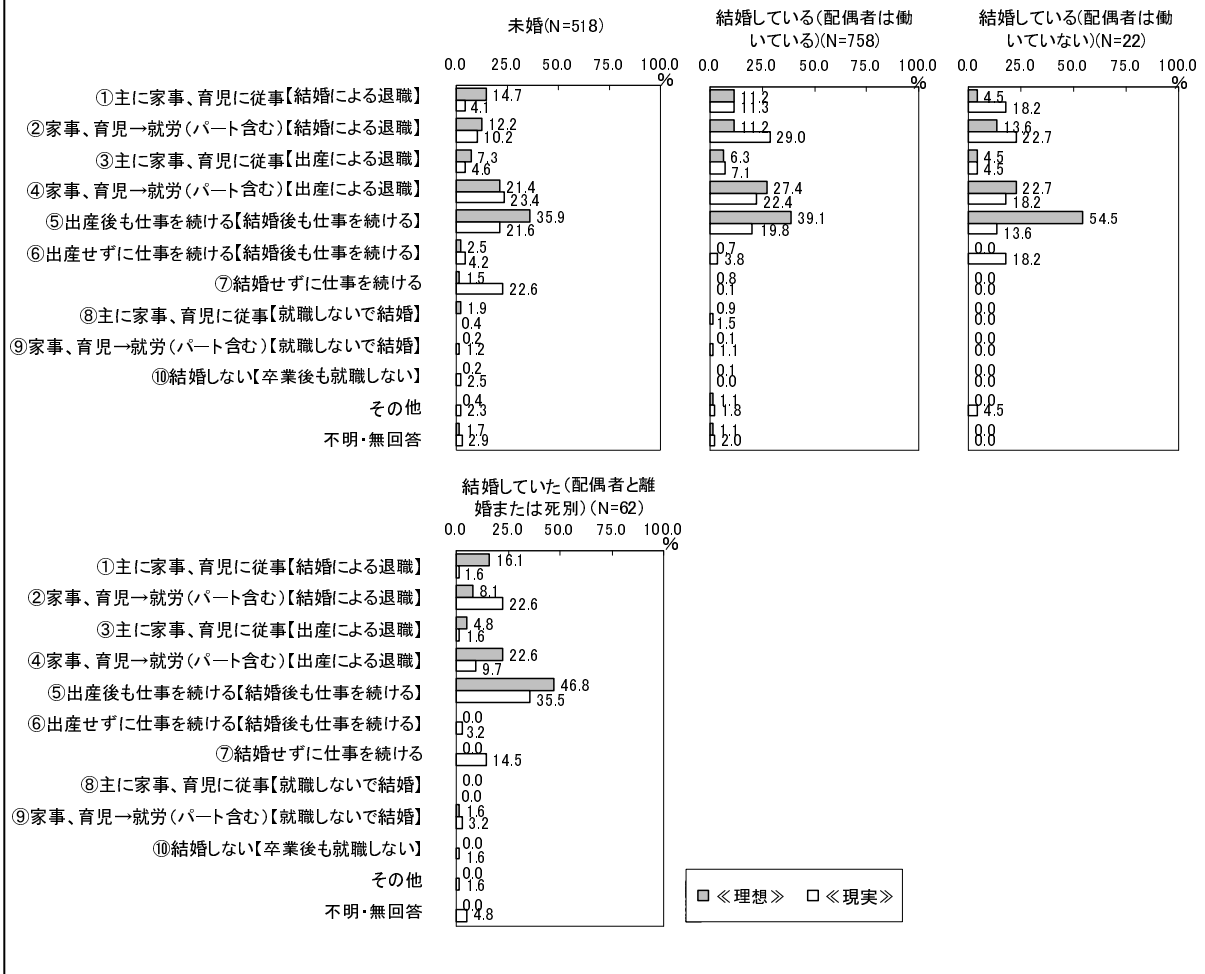
次に未婚者に限定してみると、本調査の未婚者（518人）の「理想」は、「就業継続型（両立型）」35.9%、「一時退職再就職型」33.6%であり、他方、「現実」は、「一時退職型」33.6%、「就業継続型（両立型）」21.6%と、奈良県全体の女性の動きとほぼ同様の動きを示している。《図41》

問14 女性の生き方の《理想》と《現実》についてお聞きします。

◆婚姻状況別クロス

婚姻状況別にみると、《理想》では[結婚している（配偶者は働いていない）]で「⑤出産後も仕事を続ける【結婚後も仕事を続ける】」の割合が他の階層より高くなっているが、《現実》では「⑤出産後も仕事を続ける【結婚後も仕事を続ける】」の割合は40ポイント以上低くなっている。

図41



7. 調査のまとめ—なぜ、奈良県の女性就業率は低いのか

- 結婚・出産・育児期に仕事を継続するのが困難な理由としては、夫の理解や実際の協力が得られないなどの家庭環境要因と育児と仕事の両立を可能にする職場環境の未整備があげられる。
- 再就職が困難である理由としては、夫の理解や実際の協力が得られないなどの家庭環境要因と、高齢者の介護等と仕事の両立を可能にする職場環境の未整備があげられる。
- 他に、子どものいる女性にとっては、自宅から「30分以内」程度で通勤できる職場がないという地域的要因も関係している。

現在働いていなく今後も「働けない」と答えた人の回答に注目すると、子どもが乳幼児期にある人は、「育児・教育」に専念するために「働けない」のであり、末子が13歳以上の子どもをもつ女性は「高齢者の介護や看護」などのために「働けない」。したがって「仕事と家庭の両立が難しい」ことが最大の悩みであり、「育児や介護などの休暇制度が充実していないこと」、「育児や介護のための勤務時間などの配慮がないこと」が就業の壁となっている。

子どものいる人は、正規雇用よりも非正規雇用で働くこと、「通勤時間30分以内」の職住近接を希望する人が多かった。職場環境の未整備は、奈良県特有の問題ではなく全国的に共通した問題ではあるが、自宅に近接した場所に仕事と育児・介護・看護と両立できる職場が少ないという環境上の問題が要因の一つと考えられる。

また育児や介護・看護と仕事を両立するためには、「夫の理解や協力」「夫の家事・介護への参加」を強く望んでいることから、夫の理解や実際の協力が得られないなどの家庭環境もネックとなっていると考えられる。

女性の就業等意識調査 結果報告書（概要版）

発行：奈良県

編集：暮らし創造部 男女共同参画課

住所：〒630-8501

奈良市登大路町 30 番地

発行年月：平成 22 年 2 月
